

令和4年度 京都市地域リハビリテーション推進会議 次 第

令和4年12月19日（月）
午後2時30分～「研修室」

1 報告

(1) 地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について

- (別紙1) 「地域リハビリテーション推進研修」実施状況、プログラム
- (別紙2) 障害福祉サービス事業所等訪問支援事業チラシ
- (別紙3) 地域ガエルのお出かけ講座チラシ
- (別紙4) 失語症のある方の相談支援事業チラシ
- (別紙5) おはなし広場チラシ

(2) 高次脳機能障害者支援の実施状況等について

- (別紙3) 地域ガエルのお出かけ講座チラシ〔再掲〕
- (別紙6) 作業体験プログラムチラシ
- (別紙7) 当事者・家族交流会チラシ
- (別紙8) 高次脳機能障害支援ネットワーク会議チラシ
- (別紙9) 入門講座（後期）チラシ
- (別紙10) 医療機関研修チラシ
- (別紙11) よくわかる高次脳機能障害セミナーチラシ

2 その他

【資料一覧】

- ・委員名簿
- ・京都市地域リハビリテーション推進会議開催要綱
- ・地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について
- ・高次脳機能障害者支援の実施状況等について

【別冊資料】

- (資料1) センター機関紙「リハ✿エール（第26号）」
- (資料2) センター機関紙「リハ✿エール（第27号）」
- (資料3) センター機関紙「リハ✿エール（第28号）」

京都市地域リハビリテーション推進会議委員名簿

令和4年11月10日現在

| 氏名 | 所属機関等 |
|-------|---|
| 上原 春男 | 学識経験者／医師 |
| 加藤 博史 | 学識経験者／龍谷大学名誉教授 |
| 市田 哲郎 | 京都府医師会理事 |
| 田中 聖 | 京都市社会福祉協議会ボランティア支援部部長 京都市福祉ボランティアセンター 所長 |
| 木村 耕司 | 京都市身体障害者福祉施設長協議会会長代理 |
| 麻田 博之 | 京都府理学療法士会会長 |
| 渡邊 聡 | 京都府作業療法士会会長 |
| 木村 奈緒 | 京都府言語聴覚士会会長 |
| 林 千鶴子 | 京都府看護協会常任理事 |
| 是澤 雅代 | 京都医療ソーシャルワーカー協会理事 |
| 酒伊 良行 | 京都市障害者地域生活支援センター連絡協議会理事 |
| 駒田 健一 | 京都市居宅介護等事業連絡協議会理事 |
| 久門 誠 | 京都市生活介護等事業所連絡協議会会長 |
| 井上 基 | 京都府介護支援専門員会会長 |
| 須蒲 浩二 | 京都市保健福祉局障害保健福祉推進室企画・社会参加推進課長 |
| 坂本 貴文 | 京都市教育委員会事務局指導部総合育成支援課長 |
| 西尾 健 | 京都市地域リハビリテーション推進センター所長 |

事務局 京都市地域リハビリテーション推進センター

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地

電話 075-823-1650

FAX 075-842-1545

| 事務局員氏名 | 職名 |
|--------|--------------------|
| 大塚 真理子 | 企画課長 |
| 山口 信義 | 相談課長 |
| 中芝 貴彦 | 支援施設課長 |
| 津島 道子 | 企画課企画係長 |
| 林 智裕 | 相談課相談判定係長 |
| 小野田 光宏 | 相談課地域リハビリテーション推進係長 |
| 高木 幹男 | 相談課高次脳機能障害支援係長 |
| 溝口 真也 | 支援施設課機能訓練係長 |
| 渡辺 陽子 | 企画課係員 |

京都市地域リハビリテーション推進会議開催要綱

(目的)

第1条 京都市内における地域リハビリテーションの推進について、障害のある人が自立して住み慣れた地域でより質の高い生活が送れるように、本市と医療、福祉、介護、教育等の各分野の関係機関及び団体（以下「関係機関等」という。）が連携して地域におけるリハビリテーションを推進するため、専門的な見地から幅広く意見を求めることを目的として、京都市地域リハビリテーション推進会議（以下「推進会議」という。）を開催する。

(会議の役割)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項について意見交換を行う。

- (1) 地域リハビリテーション推進事業の実施に関すること。
- (2) 地域リハビリテーションに関わる関係機関等の連携のあり方に関すること。
- (3) 生活期（維持期）におけるリハビリテーションの効果的な推進に関すること。
- (4) その他地域リハビリテーションの推進に関すること。

(委員)

第3条 推進会議の委員は、別表に掲げる障害者福祉やリハビリテーションに関する団体及び関係機関（以下「構成団体」という。）から推薦された者、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が依頼し、又は任命する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(議長等の指名)

第5条 市長は、委員のうちから推進会議の議長及び副議長を指名する。

- 2 議長は推進会議の進行をつかさどる。
- 3 議長に事故があるときは、副議長がその職務を代理する。

(推進会議の開催等)

第6条 推進会議は、市長が召集する。

- 2 市長は、必要に応じて課題別・分野別等のワーキンググループを開催することができ、ワーキンググループに関する事項は別に定める。
- 3 市長は、必要があると認めるときは、第3条に定める委員以外の関係者に出席を求め、説明及び意見を聴くことができる。

(事務局)

第7条 推進会議の事務を処理するために、京都市地域リハビリテーション推進センター企画課に事務局を置く。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、保健福祉局長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、決定の日から施行する。

(関係規約の廃止)

2 京都市地域リハビリテーション協議会規約（以下「旧規約」という。）は、廃止する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際、現に旧規約に基づく京都市地域リハビリテーション協議会（以下「協議会」という。）の委員である者は、この要綱の施行の日に推進会議の委員として依頼され、又は任命されたものとみなす。また、協議会の会長及び副会長にある者は、この要綱の施行の日に推進会議の議長及び副議長として指名されたものとみなす。この場合において、その依頼され、又は任命されたもの並びに指名されたものとみなされる者の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年11月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年12月1日から施行する。

京都市地域リハビリテーション推進会議構成団体等

| 団体名及び関係機関名等 |
|-----------------------|
| 学識経験者 |
| 一般社団法人京都府医師会 |
| 社会福祉法人京都市社会福祉協議会 |
| 京都市身体障害者福祉施設長協議会 |
| 一般社団法人京都府理学療法士会 |
| 一般社団法人京都府作業療法士会 |
| 一般社団法人京都府言語聴覚士会 |
| 公益社団法人京都府看護協会 |
| 京都医療ソーシャルワーカー協会 |
| 京都市障害者地域生活支援センター連絡協議会 |
| 京都市居宅介護等事業連絡協議会 |
| 京都市生活介護等事業所連絡協議会 |
| 公益社団法人京都府介護支援専門員会 |
| 京都市保健福祉局障害保健福祉推進室 |
| 京都市教育委員会事務局指導部総合育成支援課 |
| 京都市地域リハビリテーション推進センター |

地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について（令和4年度会議資料）

1 地域リハビリテーション推進事業

(1) 研修・指導事業

ア 地域リハビリテーション推進研修（別紙1）

市内福祉サービス事業所等に勤務する職員を対象に、リハビリテーションをはじめ福祉・介護サービスに関する知識及び技術の向上を図ることを目的とした研修を実施している。

座学の一部については、健康長寿のまち・京都推進室及びこころの健康増進センターと連携し、共催とする取組を行っている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を見送ったが、講座については、令和3年度から、十分な感染症対策を取ったうえで、会場での開催と、オンライン（Zoom）での開催を併用して実施している。実習については、令和3年度に、事業所等を訪問して実施する「出講型」の形式を新たに設け、令和4年度には、会場での実習も併せて実施している。

<地域リハビリテーション推進研修実施状況>

| | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) | 増減 (R3→R4) |
|----|---------|-------------------------|-------|------------------|---------------|
| 講座 | 講座数(講座) | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 | 18 | 11 | △7 |
| | 定員数(人) | | 1,540 | 900 | △640 |
| | 受講者数(人) | | 1,364 | 788 | △576 |
| 実習 | 講座数(実習) | | 1 | 6 | 5 |
| | 定員数(人) | | 6 | 36 | 30 |
| | 受講者数(人) | | 3 | 39 | 36 |

※令和4年度は、10月以降に9講座を実施予定。実習は、事業所からの依頼による「出講型」を随時実施予定。

イ 総合支援学校等教職員研修事業

市内の総合支援学校、肢体育成学級や通級指導教室等に従事する教職員のリハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図るため、依頼に応じてリハビリ専門職員を派遣し、各校の希望に沿った研修等を実施している。

<総合支援学校等教職員研修事業実施状況>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度(9月末現在) |
|-----------|------------------------------|--|-----------------------------|
| 事例研修 | 1校10回 延べ54人受講 ・西総合支援学校 | 3校33回 延べ164人受講 ・西総合支援学校 ・東総合支援学校 ・呉竹総合支援学校 | 1校6回 延べ22人受講 ・西総合支援学校 |
| 肢体育成学級研究会 | 0校0回 延べ0人受講 | 1校1回 延べ5人受講 | 0校0回 延べ0人受講 |

※令和4年度は、10月以降に事例研修では15回（西総合支援学校に12回、呉竹総合支援学校に3回）研修予定。

肢体育成学級研究会では、2回（大宮小学校）研修予定。

ウ 障害福祉サービス事業所等訪問支援事業（別紙2）

市内の障害福祉サービス事業所等からの依頼に基づき、利用者個々の身体状況の把握や介助の方法等について、当センターの専門職員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等）が訪問のうえ助言を行っている。

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、事業を推進している。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度及び令和3年度は、事業所等からの依頼が例年よりも少なかった。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が少し落ち着いてきたこともあってか、依頼が増加している。

<訪問実績>

| | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|-------------------|-----------|-------|-------|------------------|
| 生活介護 | 訪問箇所数（箇所） | 14 | 11 | 14 |
| | 延訪問回数（回） | 28 | 13 | 22 |
| | 延指導職員数（人） | 64 | 31 | 40 |
| 就労移行・ 就労継続支援 | 訪問箇所数（箇所） | 3 | 7 | 1 |
| | 延訪問回数（回） | 4 | 7 | 1 |
| | 延指導職員数（人） | 11 | 15 | 3 |
| 居宅介護 | 訪問箇所数（箇所） | 5 | 7 | 7 |
| | 延訪問回数（回） | 1 | 3 | 1 |
| | 延指導職員数（人） | 12 | 10 | 13 |
| その他 (相談支援事業所等) | 訪問箇所数（箇所） | 14 | 25 | 20 |
| | 延訪問回数（回） | 25 | 27 | 18 |
| | 延指導職員数（人） | 62 | 127 | 164 |
| 計 | 訪問箇所数（箇所） | 36 | 50 | 42 |
| | 延訪問回数（回） | 58 | 50 | 42 |
| | 延指導職員数（人） | 149 | 183 | 220 |

エ 電動車椅子講習会

京都府警察中京警察署交通課及び電動車いす安全普及協会の協力を得て、電動車椅子を利用している方、これから利用を考えている方やその介助者、さらにはケアマネジャーなど利用に関する相談を受ける立場にある方等を対象に、電動車椅子を安全に利用していただけるよう、適切な操作方法等について、実技を中心とした講習会を実施している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、万全の感染対策を講じた上で、例年2回の開催を1回とし、定員も半分にして実施した。

令和3年度は、定員を半分としつつも、例年どおり実施する予定であったが、コロナの感染状況を踏まえ令和3年2月は中止となり、3月開催分のみとなった。

令和4年度は、引き続き定員を半分にして2回実施する予定である。

本講習会については、先駆的な取組等が評価され、令和4年6月に、警察庁交通局長賞（優秀賞）を受賞したところである。

<電動車椅子講習会実施状況>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|
| 実施回数（回） | 1 | 1 | 2（予定） |
| 参加者数（人） | 13 | 5 | |

オ 関係機関等への講師派遣研修

（ア）地域ガエルのお出かけ講座（地域リハ関係）（別紙3）

リハビリテーションに関する知識及び技術の向上を図るため、関係機関等からの依頼に基づき、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職員による講師派遣を行っている。

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、派遣の依頼が減少している。

令和3年度からは、講座のメニューを充実させるとともに、より申込みいただきやすいように、参加人数の要件を「10名以上」から「5名以上」に緩和するなど、工夫しながら実施している。

（イ）その他の講師派遣

地域ガエルのお出かけ講座でメニュー化していない内容や、他機関と共同で講師を行う場合等についても、従来どおり関係機関等からの依頼に基づき、当センターで対応可能なものについては、講師の派遣を行っている。

<講師派遣研修の状況>

| | | 令和2年度 | 令和3年度※ | 令和4年度 (9月末現在) |
|----------------------------------|---------|-------|--------|------------------|
| 地域ガエル のお出かけ 講座（地域 リハ関係） | 箇所数（箇所） | 5 | 3 | 2 |
| | 派遣回数（回） | 5 | 5 | 2 |
| | 受講者数（人） | 182 | 57 | 25 |
| その他の 講師派遣 | 箇所数（箇所） | 1 | 3 | 2 |
| | 派遣回数（回） | 4 | 7 | 5 |
| | 受講者数（人） | 16 | 108 | 30 |
| 計 | 箇所数（箇所） | 6 | 6 | 4 |
| | 派遣回数（回） | 9 | 12 | 7 |
| | 受講者数（人） | 198 | 165 | 55 |

※令和4年度は10月以降、地域ガエルのお出かけ講座1件、その他の講師派遣2件を実施予定

<その他の講師派遣の内訳（令和4年度分（9月末現在））>

| | 依頼者 | 派遣目的 | 派遣職員 | 参加者 | 参加人数 |
|--------------------------|---------------------|-----------------------------------|----------------|---------------|------|
| 地域ガエルのお出かけ講座 (地域リハ関係) | 光の家アクティブセンター | 車椅子の移動介助の基本（実習）～段差やスロープでの介助方法～ | OT 2名 | 支援者 | 14 |
| | キャビック訪問介護・障がい者居宅事業所 | 車椅子の移動介助の基本（実習）～段差やスロープでの介助方法～ | PT 1名 ST 1名 | 支援者 | 11 |
| その他の講師派遣 | 鳴滝総合支援学校（4回） | 介護職員初任者研修養成講座 | PT 1名 OT 2名 | 受講対象高校生（3年6名） | 24 |
| | モンキーポッド（児童発達支援事業所） | 言葉の発達に課題を持つ子の支援（言葉の遅れ、発音不明瞭、場面緘黙） | PT 1名 OT 2名 | 支援者 | 6 |

(2) 啓発事業

ア センター機関紙「リハ✿エール」の発行（別冊 資料1、資料2、資料3）

センター事業に関する情報等を発信するために発行し、関係機関に配布している（平成27年11月に創刊し、3箇月に1回程度の頻度で発行）。

今後も内容の充実とともに、より手に取って読んでいただける紙面づくりに努める。

<令和4年度の発行状況>

| 発行月 | 内 容 |
|-------------------|--|
| 令和4年5月 (第26号) | <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害入門講座の案内 ・地域リハビリテーション推進センターで開催している研修等の紹介 ・施設の概要や訓練プログラム等の紹介 ・障害福祉サービス事業所等訪問支援事業の紹介 |
| 令和4年8月 (第27号) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーション推進研修の紹介 ・体力測定会&からだの相談会の開催案内 ・「電動車椅子の講習会」の警察庁交通局長賞(優秀賞)受賞の紹介 ・施設の概要や訓練プログラム等の紹介 ・高次脳機能障害支援ネットワーク会議の案内 |
| 令和4年11月 (第28号) | <ul style="list-style-type: none"> ・よくわかる高次脳機能障害セミナーの案内 ・失語症相談とおはなし広場の案内 ・訓練プログラム「教養プリント パズル パソコン」の紹介 ・電動車椅子の講習会（第2回）の案内 |

(別冊資料)

資料1「リハ✿エール」第26号、資料2「リハ✿エール」第27号、資料3「リハ✿エール」第28号

イ インターネットを使った情報発信

フェイスブックを活用して、障害福祉サービス事業所等訪問支援事業や地域リハビリテーション推進研修等の情報発信を行っている。

2 相談事業

(1) からだの動きに障害のある方の体力測定会&からだの相談会

身体に障害をお持ちの方の体力を確認、身体機能の維持・向上及び社会参加の促進を目的として、体力測定会と、専門職員（医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、管理栄養士、ケースワーカー）による「からだの相談会」を実施している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度に引き続き、集団で実施するのではなく、1時間ごとに2名の少人数で実施する予定である。

<体力測定会&からだの相談会実施状況・参加者数>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|
| 実施回数（回） | 6 | 2 | 2（予定） |
| 参加人数（人） | 15 | 10 | |

※測定項目：血圧、握力、下肢筋力、棒反応、長座位体前屈、バランス機能、歩行速度等

(2) 失語症のある方の相談支援事業（別紙4）

失語症のある方の社会参加促進を図るため、失語症のある方やその家族、支援者に対して、言語聴覚士が中心となって個別相談やグループワークによる会話の練習等を行い、障害の理解を深めていただくとともに、コミュニケーション手段の助言や利用できる社会資源の紹介、利用のための橋渡しを行っている。

<失語症のある方の相談支援事業実施状況>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|-------------|-------|-------|------------------|
| 相談者数（人） | 9 | 12 | 7 |
| うち継続相談者数（人） | 4 | 2 | 1 |
| 延べ相談回数（回） | 11 | 12 | 7 |

(3) おはなし広場（別紙5）

言語に障害のある方が、言語訓練後も自信を持って社会参加できるよう、言語聴覚士が中心となって語らいの場を提供している。

平成29年度からは失語症のある方の相談支援事業の中にあるグループワークの一つとして位置付け、当事者間の語らいや交流の場として開催するとともに、新規の利用者拡大を図っている。

令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を一時中止する月もあったが、令和4年度は、予定どおり開催できている。最近では、新しい参加者が増えるなど、地域で生活されている失語症の方のコミュニケーションの場としての役割も果たしている。

<おはなし広場実施状況>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|---------|-------|-------|------------------|
| 実施回数(回) | 15 | 21 | 15 |
| 参加者数(人) | 83 | 137 | 97 |

(4) その他の専門相談(からだの動きに障害のある方の相談等)

からだの動きに障害のある方等からの様々な相談や社会活動、社会参加に関する相談、福祉用具全般に係る利用相談等、障害のある方の障害特性や各々の活動目的に対応した専門相談を実施している。

<相談実績>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|-------------|-------|-------|------------------|
| からだの動きに係る相談 | 44 | 13 | 14 |
| 福祉用具に係る相談 | 5 | 2 | 1 |

地域リハビリテーション推進研修実施状況
【座 学】

(令和4年9月30日現在)

| 令和2年度 | | | 令和3年度 | | | 令和4年度 | | |
|-------|----|----|------------------------------|-------|-------|--|-------|-----|
| 内容 | 定員 | 実績 | 内容 | 定員 | 実績 | 内容 | 定員 | 実績 |
| | | | | | | | | |
| | | | 利用者“はたらく”・地域とつながる・実現までのプロセス | 80 | 34 | 障害福祉サービスと介護保険サービス 今こそ「マインドフルネス」 | 80 | - |
| | | | 成人脳性麻痺の方の身体機能低下を防ぐ | 80 | 24 | 分身ロボット「OniHime」による新たな働き方、社会とのつながり方について | 80 | 35 |
| | | | 精神障害④薬物療法と生活支援 | 100 | 133 | | 80 | - |
| | | | 精神障害①気分障害 | 100 | 141 | | | |
| | | | 精神障害⑤ひきこもり | 100 | 116 | 精神障害のある方とその家族への支援 | 100 | 75 |
| | | | 精神障害③統合失調症 | 100 | 141 | 気分障害の理解と支援 | 80 | 101 |
| | | | 精神障害②アルコール依存症 | 100 | 115 | 精神疾患の薬物療法 | 80 | 89 |
| | | | 高齢者に多い低栄養とは？予防と改善方法について | 80 | 33 | 統合失調症の理解と支援 | 80 | 108 |
| | | | | | | 依存症の理解と支援 | 80 | 86 |
| | | | | | | 健康的な生活を支えるリハビリテーション栄養 | 80 | - |
| | | | | | | 高齢者の特性に合わせたフレイル・サルコペニア予防のためのトレーニング | 80 | 30 |
| | | | 重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて | 80 | 26 | 重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて | 80 | - |
| | | | 健康の鍵！オーラルフレイルとその対応 | 80 | 28 | 健康の維持に必要な口腔ケアの実践 | 80 | 27 |
| | | | 言葉でのコミュニケーションが難しい子への支援～支援機器～ | 80 | 80 | 自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援 | 80 | - |
| | | | 知っておきたい発達障害の基礎知識 | 80 | 110 | これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識 | 80 | 106 |
| | | | 発達障害・知的障害のある子への性教育について | 80 | 67 | 発達障害・知的障害のある子どもへの性教育の進め方 | 80 | 65 |
| | | | 重症心身障害児・者のポジニングについて | 80 | 57 | 自分で姿勢を変えることが難しい方のポジニングについて | 80 | - |
| | | | 強度行動障害の理解と支援の実際 | 80 | 34 | 発達障害のある方の「問題」といわれる行動」への適切な理解と支援 | 80 | - |
| | | | ペアレントトレーニング | 80 | 58 | ペアレントトレーニング | 80 | 66 |
| | | | 発達障害のある児の感覚の問題について | 80 | 122 | （注）京や遊びの中で手を使おう～発達に課題のある幼児期の子どもさんへの取組より～ | 80 | - |
| | | | 「コミュニケーション」のコミュニケーション技法とその効果 | 80 | 45 | 脳障害（高次脳機能障害・発達障害・認知症）を理解するっ!! | 80 | - |
| | | | 合計（0講座） | 0 | 0 | 合計（20講座） | 1,620 | 788 |
| | | | 合計（18講座） | 1,540 | 1,364 | 合計（176） | 1,620 | 788 |

注1) 研修会場は、地域リハビリテーション推進センター研修室、又は、ラポール京都

注2) 令和3年度以降は、オンライン（Zoom）研修も開催

注3) 定員数のみ記載している内容は、令和4年10月に降に開催予定

地域リハビリテーション推進研修実施状況
【実習】

(令和4年9月30日現在)

| 令和2年度 | | | 令和3年度 | | | 令和4年度 | | |
|-----------------------------|----|----|--------------------------------|----|----|--------------------------------|----|----|
| 内容 | 定員 | 実績 | 内容 | 定員 | 実績 | 内容 | 定員 | 実績 |
| 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から 中止 | 0 | 0 | 現場で役立つ！介助法 ～移乗編～ | 4 | 3 | 現場で役立つ！介助法 ～移乗編～ | 12 | 19 |
| | | | 現場で役立つ！介助法 ～ベッド上移動・起き上がり編～ | 4 | 0 | 現場で役立つ！介助法 ～ベッド上移動・起き上がり編～ | 6 | 9 |
| | | | 現場に活かす！機能維持体操 ～座位でできる集団体操編～ | 8 | 0 | 現場に活かす！機能維持体操 ～座位でできる集団体操編～ | 12 | 7 |
| | | | 現場に活かす！機能維持体操 ～臥位でできる個別運動編～ | 4 | 0 | 現場に活かす！機能維持体操 ～臥位でできる個別運動編～ | 6 | 4 |
| 合計(0講座) | 0 | 0 | 合計(4講座) | 20 | 3 | 合計(4講座) | 36 | 39 |
| | | | | | | | | 3 |

注1) 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者を同一施設職員に限定し、御希望の会場に当センター専門職員が出向く、訪問型で通年開催

注2) 令和4年度は、地域リハビリテーション推進センター研修室で開催日を決めて実施する「会場型」と、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者を同一施設職員に限定し、

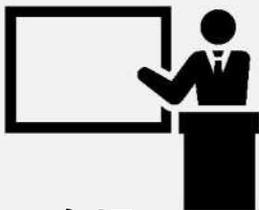
御希望の会場に当センター専門職員が出向き通年開催する「出講型」で実施

注3) 令和3年度の「訪問型」と令和4年度の「出講型」定員は、会場の広さによって変動する可能性があるもので参考値

令和4年度 京都市地域リハビリテーション

推進研修

Lecture 講座



会場



オンライン

Practical Training 実習



会場型



出講型

京都市地域リハビリテーション推進センター



(センターホームページ)

オンラインでも受講
できます！
定員50名。

講座プログラム一覧表

| | 日程 | 時間 | 講座名 | 講師名 (敬称略) |
|----|-----------|-------------|--|--------------|
| 1 | 7月11日(月) | 9:30～11:30 | これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識 | 村松 陽子 |
| 2 | 7月21日(木) | 13:30～15:00 | 高齢者の特性に合わせたフレイル・サルコペニア予防のためのトレーニング | 池添 冬芽 ● |
| 3 | 7月28日(木) | 9:30～11:30 | 今こそ「マインドフルネス」 ～先の見えない“不安の時代”を乗り越える力を高めよう～ | 竹田 伸也 |
| ※4 | 8月26日(金) | 13:30～16:30 | 精神障害のある方とその家族への支援 | 佐藤 純 ★ |
| 5 | 9月1日(木) | 9:30～11:30 | 発達障害のある子どもがいる家族への支援で大切なこと ～ペアレントトレーニングについて学んでみませんか！～ | 金納 史佳 |
| 6 | 9月7日(水) | 13:30～15:00 | 気分障害の理解と支援 | 田中 晴佳 ★ |
| 7 | | 15:20～16:50 | 依存症の理解と支援 ～アルコール・ギャンブル・薬物依存症について～ | 安東 毅 ★ |
| 8 | 9月12日(月) | 10:00～11:30 | 本人と相手の心と体のために ～「正しく学んで伝えよう」発達障害・知的障害のある子どもへの性教育の進め方～ | 平木真由美 |
| 9 | 9月16日(金) | 13:30～15:00 | 健康の維持に必要な口腔ケアの実践 ～コミュニケーションや健康の基本となるお口を大切にするために～ | 吉本 美枝 ● |
| 10 | 9月21日(水) | 13:30～15:00 | 統合失調症の理解と支援 | 杉田 尚子 ★ |
| 11 | | 15:20～16:50 | 精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～ | 波床 将材 ★ |
| 12 | 10月6日(木) | 9:30～11:30 | 発達障害のある方の「問題といわれる行動」への適切な理解と支援 | 松尾 浩久 |
| 13 | 10月14日(金) | 13:30～15:00 | 健康的な生活を支えるリハビリテーション栄養 ～チームで取り組む栄養管理の視点と関わり方～ | 齋藤 嘉子 ● |
| 14 | 10月20日(木) | 9:30～11:30 | 生活の質を高めるために！ ～自分で姿勢を変えることが難しい方(重症心身障害児・者等)のポジショニングについて～ | 江平 知子 |

| | 日程 | 時間 | 講座名 | 講師名 (敬称略) |
|----|-----------|-------------|---|------------------|
| 15 | 10月28日(金) | 10:00~11:30 | 分身ロボット「OriHime」による新たな働き方, 社会とのつながり方について ~外出が困難な方, 在宅の身体障害者・難病の方などの社会参加の新たなカタチ~ | みかちゃん なおき |
| 16 | 11月4日(金) | 13:30~15:30 | 障害福祉サービスと介護保険サービス ~切れ目のない移行や併用のカギは連携~ | ● 奥田 敏雄 |
| 17 | 11月10日(木) | 9:30~11:30 | 生活や遊びの中で手を使おう ~発達に課題のある幼児期の子どもさんへの取組より~ | 谷川 睦弓 |
| 18 | 11月17日(木) | 14:00~17:00 | 脳障害(高次脳機能障害・発達障害・認知症)を理解するっ!! | ◆ 上田 敬太 上床 輝久 |
| 19 | 11月25日(金) | 10:00~11:30 | 重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて | 堀江 淳 |
| 20 | 12月2日(金) | 9:30~11:30 | ことばを育てよう ~自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援~ | 長崎 勤 |

- ※ どの講座も, 会場またはオンラインの受講を選択できます。
- ※ 会場は, 「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階 研修室」で, 定員は30名です(4の講座を除く)。
- ※ 4の講座のみ, 会場は, 「ラポール京都 2階 大ホール(当センター西隣)」で, 定員50名です。

- ★印は「京都市こころの健康増進センター」との共催です。
- 印は「京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室」との共催です。
- ◆印は「京都府高次脳機能障害(京都市域)支援ネットワーク会議」との共催です。

ご希望の場所まで
出講もします!
定員約6名。

実習プログラム一覧表

| | 日程 | 時間 | 実習名 | 講師 |
|---|----------|-------------|-----------------------------|--------------------------|
| 1 | 6月30日(木) | 14:00~15:30 | 現場で役立つ! 介助法「移乗編」 | |
| 2 | 7月7日(木) | 9:30~11:00 | 現場で役立つ! 介助法「ベッド上移動・起き上がり編」 | 当センター 理学療法士, 作業療法士 |
| 3 | 7月14日(木) | 9:30~11:00 | 現場に活かす! 機能維持体操「座位でできる集団体操編」 | |
| 4 | 7月22日(金) | 9:30~11:00 | 現場に活かす! 機能維持体操「臥位でできる個別運動編」 | |

- ※ 会場は, 「京都市地域リハビリテーション推進センター 1階研修室」で, 定員6名です。
- ※ 実習には, 当センターで実施する「会場型」と, ご準備いただいた会場に出向く「出講型」とがあります。
- ※ 「出講型」の内容は, 「会場型」と同じです。「実習の詳細」をご覧ください。

講座の詳細

1. これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識

7月11日(月) 9:30～11:30

講師：村松 陽子

京都市発達障害者支援センター「かがやき」センター長
精神科医

発達障害のある方は、どのような場面で困難さを感じ、どのような場面で力を発揮することができるのでしょうか。また、そのような行動面や心理面の問題に対して、支援者はどのような対応をすればよいのでしょうか。

本講座では、発達障害についての知識を整理し、理解を深めます。また、事例を通してより良い関わり方の工夫や日常生活における支援方法などについても学びます。

※ 9月1日、9月12日、10月6日、11月10日、12月2日の講座は、受講者の方々が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講をお考えの方は、本講座を先に受講されることをお勧めします。

2. 高齢者の特性に合わせたフレイル・サルコペニア予防のためのトレーニング

7月21日(木) 13:30～15:00

講師：池添 冬芽 氏

関西医科大学 リハビリテーション学部理学療法学科
教授 理学療法士

介護予防事業や事業所等では、筋力トレーニングの取組が広まる一方で、高齢者の特性（加齢による運動機能の変化）に基づいたトレーニングの具体的な内容や方法について、苦慮される場面も増えてきているようです。

本講座では、高齢者の筋力トレーニングに関する研究や現場での経験が豊かな講師をお招きし、高齢者の特性に合わせた、フレイル・サルコペニア予防のための効果的なトレーニング方法について、分かりやすくお話していただきます。

3. 今こそ「マインドフルネス」

～先の見えない“不安の時代”を乗り越える力を高めよう～

7月28日(木) 9:30～11:30

講師：竹田 伸也 氏

鳥取大学 大学院医学系研究科臨床心理学講座
教授

目の前の対象者のケアや、より良い支援を行うことに全力を注ぎ過ぎて、自分自身のケアをおろそかにしていませんか。

対人援助の仕事は、やりがい大きい分、強いストレスを感じてしまうこともあります。収束の見込みがたらずに長引いているコロナ禍で、ストレスとうまくつきあいながら健やかに働いていくためにできることって何でしょう。それは、“ココロの免疫力”を高めること。

この講座では、そんな“ココロの免疫力”を高める手段の1つとして「今を存分に味わう力」を育むマインドフルネスを体験的に理解していただく時間になりたいと思います。今だからこそ求められる力を、この機会に楽しく身につけましょう。

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

4. 精神障害のある方とその家族への支援

8月26日(金) 13:30～16:30

講師：佐藤 純 氏

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部
生活環境学科 教授

精神障害のある方のケアやサポートについては、ご家族に大きな負担がかかっていることがあります。特に、病状が悪いときや、受診や継続した治療に結びついていないとき、ご本人やそのご家族は、どれだけ悩んでいることでしょうか。

この講座では、精神障害のある方やそのご家族一人ひとり（親、配偶者、きょうだい、子どもなど）が、地域でその人らしく豊かに暮らしていける支援とはどのようなものなのかについて、また、支援に当たっては、ご家族それぞれの生活の質を保つことも視野に入れておく必要があることなどについて、お話していただきます。

5. 発達障害のある子どもがいる家族への支援で大切なこと

～ペアレントトレーニングについて学んでみませんか！～

9月1日(木) 9:30～11:30

講師：金納 史佳 氏

京都ペアレントトレーニング研究会
臨床心理士・公認心理師

発達障害のある子どもは、対人関係や行動へのさまざまなこだわりがあることが多く、保護者は日々、戸惑いと葛藤を感じながら子育てをしています。

本講座では、京都ペアレントトレーニング研究会から講師をお招きし、発達障害のある子どもを持つ保護者の悩みをどのように理解し支援するのか、ペアレントトレーニングの概要や子どもとのより良い関わり方のポイントなどを、ワークや事例を交えてお話していただきます。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月11日（月）開催予定の「これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識」を事前に受講されることをお勧めします。

6. 気分障害の理解と支援

9月7日(水) 13:30～15:00

講師：田中 晴佳

京都市こころの健康増進センター
相談援助課 担当係長 精神科医

「気分障害」とは、うつ病や躁うつ病など、気分や感情に変化があるために生活に支障をきたしている精神疾患のことを指します。「うつ病」については、近年その概念に広がりが見られ、患者数が増加するとともに、状態像がきわめて多様化しています。一方、うつ状態と活力に溢れた状態を繰り返す「躁うつ病」と診断される方も、同様に増加傾向にあり、身近な疾患となりました。

本講座では、これら気分障害に関する基礎知識や、気分障害をお持ちの方への関わり方などについて、事例を交えてお話します。

7. 依存症の理解と支援

～アルコール・ギャンブル・薬物依存症について～

9月7日(水) 15:20～16:50

講師：安東 毅 氏
安東医院 院長 精神科医

依存症は、飲酒や薬物使用などのコントロールが出来なくなる「病気」であり、きちんとした治療を受けることで回復が可能です。しかし、本人が、病気であることを認めないことが多く、また、周囲の人も「本人の性格の問題」、「本人の意思が弱い」などと考えて、本人を責めることになりがちなため、治療につながりにくいケースも少なくありません。

この講座では、アルコール・ギャンブル・薬物依存症について正しく理解し、治療に結びつけていくために、医療機関との連携や、本人・家族の支援について学び、事例をとおして理解を深めます。

8. 本人と相手の心と体のために

～「正しく学んで伝えよう」発達障害・知的障害のある子どもへの性教育の進め方～

9月12日(月) 10:00～11:30

講師：平木 真由美
京都市立西総合支援学校 支援部
医療福祉コーディネーター

発達障害や知的障害のある子どもたちのなかには、暗黙の了解が分かりにくく、意思表示も苦手なことが多いために、「性」についての正しい知識がないと、嫌な思いをしてみたり、自分の心と体が傷ついてしまったりする子どももいるといわれています。自分も相手も大切にすることを育むためには、タブー視されがちな「性」についてきちんと正しい知識を伝えていくことが大切です。

本講座では、日頃なかなか学ぶ機会が少ない「性教育」の基礎知識や、発達障害や知的障害のある子どもたちへの具体的な伝え方、工夫について学びます。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月11日(月)開催予定の「これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識」を事前に受講されることをお勧めします。

9. 健康の維持に必要な口腔ケアの実践

～コミュニケーションや健康の基本となるお口を大切にするために～

9月16日(金) 13:30～15:00

講師：吉本 美枝 氏
公益社団法人 京都府歯科衛生士会 会長

食べる、噛む、飲み込むといった口腔機能の低下は、身心機能の低下の原因となり、フレイル（心身が虚弱した状態）やサルコペニア（筋肉量や筋力が低下した状態）に移行し、要介護状態に陥ることがありますが、適切な支援を行えば、改善や予防が可能です。

本講座では、口腔機能低下のリスクや予防についての基礎知識、適切な口腔ケアのデモンストレーションや、他職種連携などを含めた実践的な支援などについて、コロナ禍での事例なども交えて分かりやすくお話していただきます。

10. 統合失調症の理解と支援

9月21日(水) 13:30～15:00

講師:杉田 尚子 氏
京都大学 大学院医学研究科脳病態生理学講座
精神科医

統合失調症は、約100人に1人がかかる身近な疾患です。適切な継続した治療やリハビリテーションにより、病気とつきあいながら就労されている方、安定した生活を送っておられる方もたくさんおられます。一方で、再発しやすいため、症状が落ち着いていても治療を継続していくことが重要です。

この病気の症状は、個人差が大きいので、なかなか理解が難しい面もあります。まずは、基本的な症状や経過、治療やリハビリテーション、日常生活場面での具体的な関わり方や支援の方法などについて、事例も交えてお話していただきます。

11. 精神疾患の薬物療法 ～薬との上手なつきあい方を支援するために～

9月21日(水) 15:20～16:50

講師:波床 将材
京都市こころの健康増進センター所長 精神科医

精神障害のある方は、適切な薬物療法を継続することによって症状のコントロールが可能となる場合が多いことから、薬と上手につきあっていくことが、安定した生活を送る上で重要になります。

本講座では、薬の効果や副作用、服薬が難しくなる原因など、薬物療法の基本的な知識について学びます。

12. 発達障害のある方の「問題といわれる行動」への適切な理解と支援

10月6日(木) 9:30～11:30

講師:松尾 浩久 氏
社会福祉法人 菊鉾会 ヒーローズ 理事

重度の知的障害や自閉症の特徴が強い方に見られる、自傷・他害行為などの危険を伴う行動や、周囲の人の生活に影響を及ぼすような行為などの「問題といわれる行動」について、「具体的にどのように対応したらよいか分からない」と困ったことはありませんか。

こういった「問題といわれる行動」は、障害特性に基づく適切な支援を行うことで減少し、安定した日常生活を送れるようになることが知られています。

本講座では、「問題といわれる行動」という形で表れる発達障害のある方の訴えを理解し、適切な支援を行うための具体的な方法について、事例などを通して学びます。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月11日(月)開催予定の「これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識」を事前に受講されることをお勧めします。

13. 健康的な生活を支えるリハビリテーション栄養 ～チームで取り組む栄養管理の視点と関わり方～

10月14日(金) 13:30～15:00

講師：齋藤 嘉子 氏
介護医療院 茶山のさと リハビリテーション課
課長 作業療法士

高齢者の生活機能の維持には、適切な栄養補給と運動が重要とされており、低栄養の状態では運動をすると、身体機能がより低下してしまう恐れがあります。

本講座では、対象者を疾病という枠だけで捉えるのではなく、生活の質を最大限高めるために、身体機能・活動・参加等多面的な観点からアプローチする「リハビリテーション栄養」の考え方、作業療法士の視点や他の職種との視点、多職種連携の在り方、支援方法など、生活や運動を支える栄養管理について、コロナ禍での取組についても触れながら、事例を交えて分かりやすくお話していただきます。

14. 生活の質を高めるために！ ～自分で姿勢を変えることが難しい方(重症心身障害児・者等)のポジショニングについて～

10月20日(木) 9:30～11:30

講師：江平 知子 氏
聖ヨゼフ医療福祉センター
リハビリテーション科 科長 理学療法士

自分で姿勢を変えることが難しい方（重症心身障害児・者等）にとって、日常生活におけるポジショニングは、「話が聞きたい」「遊びたい」「一休みしたい」「タブレットが見たい」「みんなの顔が見たい」等々の“目的”を達成させるための“手段”であり、本人がどのような姿勢を選ぶかは、生活の場面によって異なります。

本講座では、本人が選んだ姿勢を「良姿勢」とするために整えていくポイントについて、豊富な臨床経験を持つ講師から、理学療法士の視点でお話していただきます。

15. 分身ロボット「OriHime」による新たな働き方、社会とのつながり方について ～外出が困難な方、在宅の身体障害者・難病の方などの社会参加の新たなカタチ～

10月28日(金) 10:00～11:30

講師：みかちゃん(藤田美佳子 氏)
なおき(松島 尚樹 氏)
分身ロボットカフェ DAWN ver.β
OriHimeパイロット

『分身ロボットカフェ DAWN ver.β』をご存知でしょうか。令和3年6月に東京・日本橋にオープンした、株式会社オリィ研究所（以下、オリィ研究所¹）が運営するカフェです。このカフェは、外出困難者である従業員が分身ロボットを自宅から遠隔操作し、サービスを提供するというまったく新しい形態のカフェで、分身ロボットを操作する従業員は「パイロット」と呼ばれています。「パイロット」はベッド上や自宅に居ながら遠く離れたカフェで勤務し、分身ロボットを操作して飲み物を運んだり接客をする、そんな想像もしなかった新たな働き方について、実際に「パイロット」としてカフェで勤務されているお二人にお話していただきます。

1) オリィ研究所は、孤独化の要因となる「移動」「対話」「役割」などの課題をテクノロジーで解決し、これからの時代の新たな「社会参加」を実現することをミッションとしており、分身ロボットなどのツールを開発されています。

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

16. 障害福祉サービスと介護保険サービス

～切れ目のない移行や併用のカギは連携～

11月4日(金) 13:30～15:30

講師：奥田 敏雄 氏

京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
コーディネーター

利用者の方の加齢に伴う身体機能や生活能力の変化、支援内容の変更が必要になったとき、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行や併用等、利用者の方の生活ステージに応じた支援を切れ目なく行うために苦慮することはないですか。

本講座では、前半に、各地域の地区医師会が設置・運営している、医療・介護・福祉関係者を対象とした支援機関である「在宅医療・介護連携支援センター」のコーディネーターから、事例を通して連携の在り方や制度の理解など、より良い支援を行うために役立つ情報を提供していただきます。また後半には、グループワークを行い、事例をとおした意見交換や情報交換の場を設ける予定です。

17. 生活や遊びの中で手を使おう

～発達に課題のある幼児期の子どもさんへの取組より～

11月10日(木) 9:30～11:30

講師：谷川 睦弓

京都市児童福祉センター 発達相談所 診療療育課
作業療法士

「鉛筆が正しく持てない」「お箸が上手く使えない」という子どもへの支援が増えています。指の間に鉛筆を挟んでいたたり、お箸を握るように持っているなど、手の使い方が未熟と感じる子どもに関わったことがあるのではないのでしょうか。

本講座では、手の使い方を見立てた支援、生活経験や遊びでどのようなことが大切なのかを事例を交えてお話しします。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月11日(月)開催予定の「これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識」を事前に受講されることをお勧めします。

18. 脳障害（高次脳機能障害・発達障害・認知症）を理解するっ!!

11月17日(木) 14:00～17:00

講師：上田 敬太 氏

京都光華女子大学 健康科学部医療福祉学科
言語聴覚専攻 教授 精神科医

講師：上床 輝久 氏

京都大学医学部附属病院 精神科神経科 助教
児童精神科医

高次脳機能障害、発達障害、認知症。これらは、病名も発症のきっかけも全く異なりますが、脳の認知機能に問題（違い）があることで、生活に困難が生じているという点で共通しています。そのため、当事者の困り感や支援の方法も、似ているところが多くあります。

この講座では、前半は、脳の機能不全の臨床に長年携わっておられるお二人の医師から、それぞれの障害や症例等について分かりやすくレクチャーしていただくとともに、事例を基にして、対談形式で現場に即した対応方法を深めていただきます。後半は、参加者の皆様にも、グループに分かれて事例検討をしていただき、それぞれの職場での取組やアイデア等を共有していただく予定です。

19. 重症心身障がい児・者の排痰・呼吸器ケアについて

11月25日(金) 10:00～11:30

講師：堀江 淳 氏
京都橘大学 健康科学部理学療法学科
教授 理学療法士

「呼吸ケア」と聞くと、専門的な知識や技術が必要だと思っておられる方が多いのではないのでしょうか？しかし、「呼吸ケア」は、医療従事者以外の支援者にも必要な知識であり、特に、重度の障がいを持つ方を支援している事業所では、「呼吸をみる」ことそのものが重要な支援となっています。

本講座では、簡単な呼吸の解剖や生理、異常な呼吸の見分け方、排痰方法（体位排痰、徒手排痰手技）などについて、デモンストレーションを交えて分かりやすくお話していただきます。

20. ことばを育てよう ～自閉スペクトラム症の特性に配慮した会話支援～

12月2日(金) 9:30～11:30

講師：長崎 勤 氏
実践女子大学 大学院生活科学研究科 教授
言語聴覚士 公認心理師

一方的なやりとりになったり、相手の気持ちが分かりにくいなど、特異な言語発達を示すことが多い自閉スペクトラム症の子どもとの意思疎通は難しく、気持ちの引き出し方やくみ取り方はどうしたらいいのか、どのように支援していけばいいのかなど、日々現場で悩まれていませんか。

本講座では、長年、言語発達、特に子どものナラティブ（語り）の発達とその支援について研究してこられた講師に、自閉スペクトラム症の子どもとの会話特性とその支援について、事例を通してお話していただきます。

※ 本講座は、受講者が発達障害の基礎知識を持っておられることを前提とした内容になります。受講される方は、7月11日（月）開催予定の「これだけは知っておきたい発達障害の基礎知識」を事前に受講されることをお勧めします。

※ 会場では、講師が遠隔地からZoomで行う講義を上映する予定です。

実習の詳細

<会場型> 講師は、当センターの理学療法士・作業療法士です。

1. 現場で役立つ！介助法「移乗編」

6月30日(木) 14:00～15:30

立ち上がりや方向転換など、移乗に関連する動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたさまざまな種類の移乗方法などについて学びます。

- ・使い捨て手袋をご用意ください。

2. 現場で役立つ！介助法「ベッド上移動・起き上がり編」

7月7日(木) 9:30～11:00

ベッド周囲の動作（臥位での上方移動や側方移動、寝返り、起き上がりなど）の動きのしくみを考えます。また、利用者の身体機能や体格に合わせたよりよい介助方法について学びます。

- ・使い捨て手袋をご用意ください。

3. 現場に活かす！機能維持体操「座位でできる集団体操編」

7月14日(木) 9:30～11:00

主に高齢者を対象にした集団体操について、より効果的かつ安全に実施する方法について学びます。

4. 現場に活かす！機能維持体操「臥位でできる個別運動編」

7月22日(金) 9:30～11:00

障害のある方や高齢者が定期的に身体を動かすことの重要性和、日々の支援の中に取り入れることができる個別運動について学びます。

- ・使い捨て手袋をご用意ください。

<出講型>

内容は、<会場型>1～4と同じです。会場と以下の物品を準備してください。

実習1：ベッド1台、車椅子2台（ベッドと車椅子がない場合は、椅子4～6脚（肘掛なし）で代用可能）

実習2：ベッド1台（ベッドがない場合は、床にマットで代用可能）

実習3：椅子人数分（講義、実習で使用）

実習4：床に敷くマット（参加人数の半分の数：ペアになって実習を行います。）

実習1, 2, 4は、実習時に使い捨て手袋（参加者でご用意ください）の着用をお願いします。

全講座共通：椅子人数分（講義時に使用）

※ 日程や会場の広さ、定員等については、お気軽にご相談ください。

令和4年度 京都市地域リハビリテーション推進研修実施要領

1 目的

本研修は、リハビリテーションに関連する知識及び介護技術等の向上を目的とした研修を行うことにより、本市における地域リハビリテーションの推進及び充実を図るとともに、福祉・介護サービス等の質の向上に資することを目的とします。

2 受講対象者

次のいずれかに該当している方

(1) 次に定める事業に従事する市内事業所の職員

ア 障害者総合支援法による障害福祉サービス等及び相談支援

イ 児童福祉法による障害児入所支援及び障害児通所支援

ウ 介護保険法による居宅サービス事業所、地域密着型サービス事業所、居宅介護支援事業所、介護予防サービス事業所、地域密着型介護予防サービス事業所、介護保険施設、介護予防・日常生活支援総合事業の第一号事業に係る指定事業所及び地域包括支援センター

(2) 市内の総合支援学校及び育成学級等に勤務している教職員

(3) 障害者の支援に関する業務に従事している本市職員

(4) 障害者の支援等を行っている市内団体等に所属する方

(5) 障害者雇用を進める企業に所属する方等

(6) その他、研修内容に応じて、市長が認める方

京都市地域リハ推進研修

検索

3 日程及び内容

プログラム一覧表を御参照ください。

(当センターのホームページでも御確認いただけます。)



(センターホームページ)

4 受講形態

講座：会場での受講、又は、オンラインでの受講（選択可）

実習：会場型（当センターで実施）、又は、出講型（受講者側が準備した会場で実施）

5 会場及び定員

プログラム一覧表を御参照ください。

6 受講料：無 料

(出講型の実習で、会場に関わる費用が発生する場合は、受講者側で御負担ください。)

7 申込方法

以下の各申込フォームからお申込みください。

〔 講座を会場で受講する場合、及び、実習の場合は、FAXでも申し込めます。
FAX用申込様式は、ホームページからダウンロードできます。 〕

*申込み受付後、メール等で申込受理の連絡を行います。申込後、数日経っても連絡がない場合はお問い合わせください。

*1つの端末で複数名が講座をオンライン受講される場合にも、1名ずつ申込みが必要です。

講座 申込フォーム：https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=5468

実習（会場型）申込フォーム：https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=5462

実習（出講型）申込フォーム：https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=5511



(講座申込フォーム)



(実習（会場型）申込フォーム)



(実習（出講型）申込フォーム)

8 申込締切：各開催日の2開庁日前（ただし、先着順で定員に達し次第、締め切ります。）
出講型の実習は、希望される日の1箇月前までに申し込んでください。

締切後も、受講枠に空きがある場合は申込みを受け付けますので、お問い合わせください。

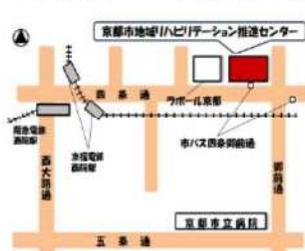
9 留意事項

- (1) やむを得ず欠席される場合は、受講形態に限らず必ず事前に御連絡ください。
- (2) 会場で講座を受講される方のうち、聴覚障害により手話通訳等が必要な方は、各講座の2週間前までに御連絡ください。
- (3) 会場へは、公共交通機関を御利用ください。特別な理由があり、車での来場が必要な場合は、事前に御相談ください。
- (4) 各研修開始3時間前の時点で、京都市に「暴風警報」又は「特別警報」が発令されている場合は、会場開催、オンライン開催ともに中止します。各自で御確認ください。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、会場での開催を中止し、講座のみオンラインで開催する場合があります。その場合は、開催1週間前をめどに申込者宛てにメール、FAX等で御連絡します。当センターのホームページにも随時情報を掲載しますので、御確認ください。
- (6) 研修会場は、常時換気を行っており細やかな温度調整ができません。衣類などで調整できるように必要に応じて御準備ください。
- (7) 講座をオンラインで受講される場合は、インターネット接続が可能なパソコン等の端末、回線、及び、Zoomアプリケーションを御準備ください。（通信料は受講者負担）
 - *開催2日前を目途に、Zoom視聴用ID、講義資料等を、記載いただいたアドレスに送信します。
 - *セキュリティリスクを防ぐため、フリーWi-Fiでの接続は避けてください。
 - *インターネットへの接続環境や技術的な障害によって、研修中に接続が切れる可能性があります。
 - *当日、個別の操作説明や接続トラブルへの対応はできませんので、御了承ください。
- (8) その他、受講に際しての注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。該当する行為が発見された場合は、御退場いただきます。また、講義内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処します。

- ・講義の録画、録音、撮影
- ・資料の二次利用
- ・講義の詳細内容のSNS等への投稿
- ・ZoomのID及びパスワードの無断共有（オンライン受講の場合）

10 当センターへのアクセス、問合せ先



※四条烏丸から
市バス（3, 8, 11, 13, 特13, 26, 29, 91, 203系統）で「四条御前通」下車すぐ

※京都駅から
市バス（26, 28, 71系統）で「四条御前通」下車すぐ

※「阪急西院駅」「嵐電西院駅」下車、東へ徒歩3分

| | |
|------|---|
| 問合せ先 | 〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30 京都市地域リハビリテーション推進センター相談課 地域リハビリテーション推進研修 担当（ <small>うえがき いもせ</small> 上垣・妹背）宛 TEL 823-1666 FAX 842-1541 E-Mail rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp （受付時間：土、日、祝日を除く午前8：30～午後5：00） |
|------|---|

京都市障害福祉サービス事業所等訪問支援事業

リハビリ専門職員が訪問し、支援者の方のご相談に応じます！

利用者の方にこんな困りごとはありませんか？



■ 加齢に伴う身体機能の低下について

今までできていた動作が難しくなってきた

「動作方法や介助方法を工夫したい」

「手すりの設置など環境調整について教えてほしい」

「利用者の方に合った運動プログラムを知りたい」



■ 歩くことについて

転倒やふらつくことが増えてきた

「歩行時の介助方法を知りたい」

「機能を維持するための訓練方法を教えてほしい」

「どんな杖や歩行器が利用できるか知りたい」



■ 食事中の困りごとについて

最近食事中におせるんです

「食物形態、盛り付け方、一口量、食べるペースなどについて知りたい」

「食事姿勢や介助方法の工夫について教えてほしい」

「誤嚥性肺炎を予防するためにはどうしたらいいか教えてほしい」



■ 移乗について

「車椅子からトイレへの移乗の仕方を知りたい」

「送迎車への乗り降りの方法を知りたい」



■ その他

- ・ 訪問型体力測定(定期的に体力を測定し、身体機能維持に役立つ)
- ・ 休息時、作業時などの姿勢調整
- ・ 段差解消や手すりの設置など住環境についての相談
- ・ 障害のある方とのよりよいコミュニケーション方法 など

障害福祉サービス事業所等訪問支援事業とは

当センターの理学療法士，作業療法士，言語聴覚士等の専門職員が，市内の事業所や居宅を訪問し，支援者の方に，利用者個々の身体状況の把握や介助等への対応方法，機能維持のための活動プログラムの導入など，さまざまな困りごとへの助言を行っています。(過去5年間の実績：約300件)

※ 継続的なりハビリテーションを提供するものではありません。

※ 状況によっては，医療機関の受診をおすすめする場合があります。



■ 相談件数・実施時間

1回の訪問につき，1名あたり概ね1時間程度です。

訪問型体力測定は，1回の訪問につき最大6名まで可能です。

利用は
無料です！

■ 利用対象

市内の事業所等の支援者

- **障害福祉サービス事業所** (生活介護，共同生活援助，自立訓練，就労移行支援，就労継続支援，居宅介護，相談支援，児童発達支援，放課後等デイサービス，施設入所支援など)
- **介護保険サービス事業所** (居宅サービス事業，介護福祉施設，地域包括支援センターなど)

■ その他

- ・新型コロナウイルス感染症対策として，手指消毒，検温を実施の上，マスクの着用をお願いします。
- ・なるべく広い会場をご準備いただき，適宜換気を行ってください。

利用の流れ

- (1) ホームページから<申込書・情報提供書>をダウンロードしてください。
- (2) <申込書・情報提供書>に必要事項を記入し，申し込んでください。(詳細は右の欄をご覧ください。)
- (3) 具体的な日程や内容を調整します。
- (4) センターから実施の決定を通知します。
- (5) センター職員が事業所等を訪問し，助言します。
- (6) 後日センターから報告書を送付します。



ホームページ

申込方法

◆ E-mailでのお申込み

ホームページから<申込書・情報提供書>をダウンロードし，必要事項を入力の上，メールで送信してください。メールの件名は【事業所訪問申込み】としてください。

※ 誤送信にご注意ください。

◆ FAXと郵送によるお申込み

ホームページから<申込書・情報提供書>をダウンロードし，必要事項を記入の上，<申込書>をFAXで，<情報提供書>を郵送で，それぞれお送りください。

※ <情報提供書>は，個人情報保護のため，FAXでは送らないでください。

※ 訪問を希望される日の2週間前までに申し込んでください。

京都市訪問支援事業

で 検索



■ 問合せ・申込先

京都市地域リハビリテーション推進センター 相談課

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30

TEL : 823-1666 FAX : 842-1541

E-mail[申込み専用] rehabili-chiiki@city.kyoto.lg.jp



センターのFacebookです。
ぜひご登録ください。



「京都市障害福祉サービス事業所等訪問支援事業」の調査報告書を掲載しています。



発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
(令和3年6月発行)
京都市印刷物 第034234号

地域ガエルのお出かけ講座のお知らせ

専門職員がお住まいの地域に出向いてお話しします！！

1 お出かけ講座について

京都市地域リハビリテーション推進センターの専門職員（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，高次脳機能障害支援コーディネーター等）が，お住まいの地域に出向き，リハビリテーションに関連する知識や技術の向上，高次脳機能障害者支援の拡大を目的とした講座を開催します。お気軽にお申込みください！！

2 対象

市内に在住，在学又は在勤する方が概ね5人以上集まる集会，市内の障害福祉サービス事業所等や医療機関等において概ね5人以上が集まる研修会を対象に講師を派遣します。



3 費用

無料（ただし，会場に関わる費用はご負担いただきます。）

地域ガエルは『地域に帰る』をモットーにしている当センターのキャラクターです。

4 内容

各テーマについて説明（概ね60分）と質疑（概ね10分）を行います。

*この講座は，地域リハビリテーションのより一層の推進や高次脳機能障害のある方への支援の拡大を目的に開催するもので，苦情や要望，個別の相談をお聞きする場ではありません。ご理解いただきますようお願いいたします。

5 テーマ

- ① 支援者の腰痛予防
～腰痛の基礎知識と健康管理（セルフケア）について～
- ② 支援者の腰痛予防
～福祉用具を用いた持ち上げない介助方法について（実習）～
- ③ 支援者の腰痛予防
～介助における身体の使い方や姿勢の工夫について～
- ④ 車椅子の移動介助の基本（実習）
～段差やスロープでの介助方法～
- ⑤ 高齢者の身体機能維持のポイント
- ⑥ 障害者の身体機能低下とその対処法について
- ⑦ 食事を安全にとるために（摂食・嚥下について）

- ⑧ 失語症の方とのコミュニケーション方法について
- ⑨ 身体障害のある方の特性とその配慮について
- ⑩ 高次脳機能障害について
～発症からのステップ（社会参加に向けて）～
- ⑪ 高次脳機能障害について
～注意障害・記憶障害・遂行機能障害について～
- ⑫ 高次脳機能障害について
～社会的行動障害について～
- ⑬ 高次脳機能障害について
～その症状と対応について～
- ⑭ 高次脳機能障害のある方の就労に必要なこと
- ⑮ 高次脳機能障害者支援センターでの相談支援について

6 申込方法

開催を希望される日の1箇月前までに裏面の「地域ガエルのお出かけ講座事業申込書」を郵送又はFAX，メールにより送付してください。

7 申込み及び問合せ先

京都市地域リハビリテーション推進センター相談課（京都市中京区壬生仙念町30）

電話 823-1666 FAX 842-1541 申込専用アドレス rehab-ir-sodan@citykyoto.lg.jp

受付時間 月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）

8：30～12：00及び13：00～17：00



メールで申込まれる場合は，件名に必ず「お出かけ講座申込」をご記入ください。

8 その他

- ・新型コロナウイルス感染症対策としてマスクの着用をお願いいたします。
- ・当日の体調に御配慮いただき，咳や発熱などの症状がある場合は，参加をお控えいただきますようお願いいたします。



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
（令和3年4月発行）
京都市印刷物 第034079号

（あて先）京都市地域リハビリテーション推進センター相談課長

| | | | | | | | | | |
|--|---|-------|---|-----|-----|-----------|---|---|---|
| | | 申込日 | 年 | 月 | 日 | | | | |
| 団体名及び 代表者氏名 | | | | | | | | | |
| 連絡先 (申込者) | 氏名 | | | | | | | | |
| | 住所 | | | | | | | | |
| | 電話番号 (携帯) | (| - | - |) | FAX 番号 | - | | |
| | Eメールアドレス | | | | | | | | |
| 希望日時 *出講者の他の用 務等によりご希望 に添えない場合が ありますのでご了 承ください。 | 第1希望 | 月 | 日 | () | 時 | 分 | ～ | 時 | 分 |
| | 第2希望 | 月 | 日 | () | 時 | 分 | ～ | 時 | 分 |
| | 第3希望 | 月 | 日 | () | 時 | 分 | ～ | 時 | 分 |
| 会場 (京都市内におい てご用意くださ い。) | 会場名 | | | | TEL | | | | |
| | 所在地 | 京都市 区 | | | | | | | |
| 参加予定人数 | 人 | | | | | | | | |
| 希望テーマ (希望するテーマ の番号に1つ〇を つけてくださ い。) | ① 支援者の腰痛予防～腰痛の基礎知識と健康管理（セルフケア）について～ ② 支援者の腰痛予防～福祉用具を用いた持ち上げない介助方法について（実習）～ ③ 支援者の腰痛予防～介助における身体の使い方や姿勢の工夫について～ ④ 車椅子の移動介助の基本（実習）～段差やスロープでの介助方法～ ⑤ 高齢者の身体機能維持のポイント ⑥ 障害者の身体機能低下とその対処法について ⑦ 食事を安全にとるために（摂食・嚥下について） ⑧ 失語症の方とのコミュニケーション方法について ⑨ 身体障害のある方の特性とその配慮について ⑩ 高次脳機能障害について～発症からのステップ（社会参加に向けて）～ ⑪ 高次脳機能障害について～注意障害・記憶障害・遂行機能障害について～ ⑫ 高次脳機能障害について～社会的行動障害について～ ⑬ 高次脳機能障害について～その症状と対応について～ ⑭ 高次脳機能障害のある方の就労に必要なこと ⑮ 高次脳機能障害者支援センターでの相談支援について | | | | | | | | |

* 「地域ガエルのお出かけ講座」は、ご希望のテーマに基づき職員が説明を行い、質疑応答を通して地域リハビリテーションのより一層の推進や高次脳機能障害のある方への支援の拡大を目的に開催するものです。苦情や要望、個別の相談をお聞きする場ではありませんので、その旨、参加者の皆様への周知をお願い致します。

* 講義内容の詳細につきましては、ご希望があればご相談ください。

* 今回の講座の内容に関して、個別に相談を希望する案件がある場合は、日を改めて地域リハビリテーション推進センターの相談事業として対応させていただきます。

* 講座の開催日につきましては、原則として、月曜日から金曜日まで（祝日・年末年始を除く）の午前9時から午後5時まででお願いしております。

失語症のある方の相談支援事業

ことばの障害でお困りの方の支援をします



”地域ガエル”は『地域に帰る』をモットーにしている当センターのキャラクターです。

☆失語症とは・・・

脳出血等の脳血管疾患の後遺症で物の名前が出てこない、言おうと思ったことをうまく話せない、音は聞こえるのに言葉が理解できないなどの症状があります。

☆こんなことでお困りの方

- ・ 退院後、復職・就労したいが失語症があってもうまくできるだろうか？
- ・ ことばに不安があるが、どこかに交流したり社会参加したりできるところはないかな？
- ・ 家族が失語症になったが、どのように接すればうまくコミュニケーションが取れるのだろうか？
- ・ …などさまざまな不安をお持ちの方

☆こんなことをします

- ・ 言語聴覚士が中心となって、利用できるサービスを一緒に考えます。
- ・ サービスの利用先へ失語症のことを説明するお手伝いをします。
- ・ ご家族のより良いコミュニケーション方法などを検討します。
- ・ 必要に応じて少人数でのグループワーク（失語症に関する評価や、失語症についての理解を深めるため、適切なコミュニケーション手段を使って、少人数での会話の練習）を実施することもあります。

☆対象

市内在住の失語症のある方、そのご家族、支援者

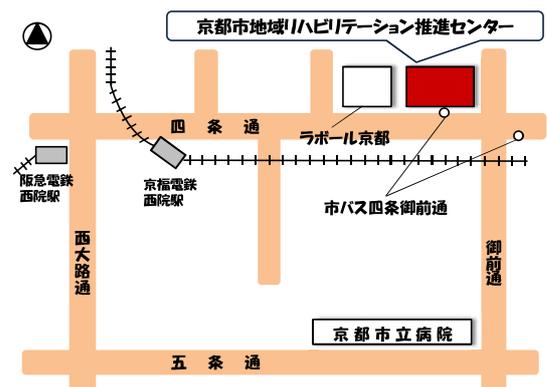
☆受付

お電話または相談窓口へ直接お越しください。

電話：075-823-1666

来所：中京区壬生仙念町30

京都市地域リハビリテーション推進センター
失語症相談窓口（1階相談課内）



市バス 四条御前通 下車すぐ
阪急電鉄 西院駅から 徒歩約6分
京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分

ことばの障害には失語症以外にもさまざまなものがあります。うまく話せない、言っていることがよく分からない…、でも、失語症かどうか分からないという場合もお気軽にお問合せください。相談だけでもお受けします。

京都市地域リハビリテーション推進センター

おはなし広場

失語症のある方、一緒にお話しませんか？

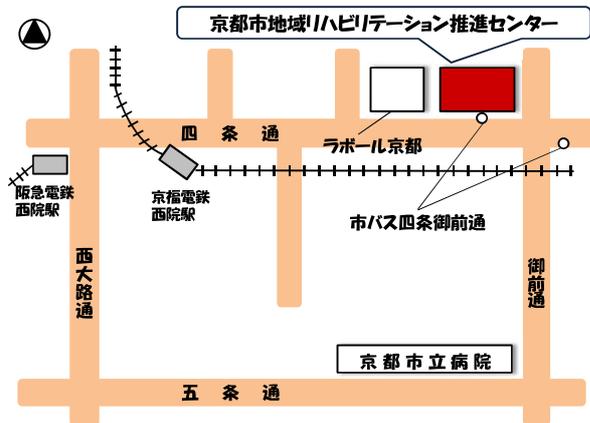
京都市地域リハビリテーション推進センターでは、失語症のある方が、コミュニケーションを楽しむお話の場として「おはなし広場」を開催しています。



病気などにより言葉が不自由になると、コミュニケーションの面で、ご本人やご家族にしか分からない悩みや不便が生じることがしばしばあります。当センターでは、参加者の方々が交流を深めていただくとともに、コミュニケーションを楽しんでいただけるよう、言語聴覚士がサポートしています。ぜひご参加ください。

- ・ 日 時： 毎月 第1, 第2, 第3水曜日 (1月と8月を除く)
午前9時～午前11時
- ＊ただし、祝日にあたる場合、当該日は休止とし、第4水曜日に開催します。
- ・ 場 所： 京都市地域リハビリテーション推進センター1階 ミーティングルーム
- ・ 対 象： 市内在住の失語症のある方
- ・ 内 容： 新聞記事の音読や歌唱, ゲーム等を通じてコミュニケーションを楽しむ
- ・ 参加費： 無料
- ・ 定 員： 10名程度

失語症とは、脳出血等の脳血管障害の後遺症で名前が出てこない、言おうと思ったことをうまく話せない、音は聞こえるのに言葉が理解できないなどの症状があります。



【申込み・問合せ先】

京都市地域リハビリテーション推進センター相談課
(京都市中京区壬生仙念町30)

電話: 823-1666 FAX: 842-1541

受付時間: 月曜日～金曜日(祝日・年末年始除く) 8:30～12:00及び13:00～17:00

市バス 四条御前通 下車すぐ
阪急電鉄 西院駅(西大路四条)から徒歩 約6分
京福電鉄 西院駅から 徒歩約3分



発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
(平成29年5月発行)
京都市印刷物 第294158号

高次脳機能障害者支援の実施状況等について (令和4年度会議資料)

1 高次脳機能障害者支援センター

当事者やその家族、関係機関等から高次脳機能障害に関する相談をお受けし、支援コーディネーター等専門スタッフが地域生活支援等の個別支援のほか、障害福祉サービス事業所や医療機関等への支援を行っている。(令和4年度は医師1、保健師1、看護師2、心理判定員2、作業療法士1の体制)

(1) 個別支援及び事業所支援

ア 相談状況（新規相談件数）

支援センターへの新規の相談件数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、近年はやや減少傾向にある。相談内容としては、症状や対応方法についての相談、当センター施設利用も含めた何らかのリハビリや訓練に関する相談、就労・復職や日中活動に関する相談が多い。

<相談者別状況>

| 相談者 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|------|-------|-------|------------------|
| 本人 | 27 | 30 | 16 |
| 家族 | 68 | 79 | 40 |
| 支援者等 | 107 | 82 | 48 |
| 合計 | 202 | 191 | 104 |

<方法別状況>

| 相談方法 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|------|-------|-------|------------------|
| 電話 | 192 | 183 | 99 |
| 来所 | 10 | 8 | 5 |
| 合計 | 202 | 191 | 104 |

<相談内容別状況>

| 相談内容 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|-----------------|-------|-------|------------------|
| 疾病・症状 | 45 | 46 | 20 |
| 対応方法 | 20 | 15 | 8 |
| 診察希望 | 12 | 8 | 6 |
| 退院後の生活 | 5 | 8 | 6 |
| リハビリ希望 | 15 | 16 | 11 |
| 当センター支援施設利用 | 64 | 45 | 21 |
| 日中活動（在宅福祉サービス等） | 16 | 12 | 8 |
| 就労・復職 | 19 | 37 | 19 |
| 復学 | 0 | 0 | 0 |
| 運転関係 | 1 | 1 | 0 |
| 各種制度（手帳、年金など） | 9 | 10 | 5 |
| その他 | 24 | 21 | 18 |
| うち、本障害に関すること | 16 | 19 | 16 |
| 本障害に起因しない相談 | 8 | 2 | 2 |
| 合計 | 230 | 219 | 122 |

イ 支援状況

これらの相談に対して行った支援の具体的な内容は以下のとおりである。

復職、新規就労や福祉サービスの利用等については、それぞれの方の障害特性を踏まえた支援調整が必要となるため、担当の支援コーディネーターを決めたうえで継続的な支援を行っている。

<支援内容の内訳及び件数> (支援した内容をすべてカウント)

| 支援内容 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|--------------|-------|-------|------------------|
| 対処方法や制度等の助言 | 2,604 | 1,986 | 1,058 |
| 当センター障害者支援施設 | 96 | 82 | 31 |
| 専門医による診察 | 201 | 132 | 75 |
| 確定診断 | 12 | 12 | 4 |
| 支援方針の策定 | 111 | 91 | 58 |
| 診断書作成 | 78 | 29 | 13 |
| 心理検査 | 7 | 4 | 0 |
| 作業体験プログラム | 102 | 171 | 59 |
| カンファレンス参加 | 20 | 25 | 10 |
| 当事者・家族交流会 | 66 | 76 | 66 |
| その他 | 70 | 66 | 23 |
| 合計 | 3,166 | 2,542 | 1,322 |

<継続支援の状況>

(令和3年度)

| 内訳 | | 件数 |
|--------------|---------------|----|
| 継続支援を要する相談 | | 96 |
| 支援終了件数 | | 37 |
| 支援結果 | 地域生活移行や日中活動支援 | 14 |
| | 就労(復職、新規) | 14 |
| | 就労支援事業所利用 | 4 |
| | 復学や学校生活 | 0 |
| | 確定診断 | 5 |
| | その他(支援事項の消滅等) | 0 |
| 令和3年度に引き継ぐ件数 | | 59 |
| 支援ニーズ | 地域生活移行や地域生活 | 14 |
| | 就労 | 35 |
| | 復学や学校生活 | 3 |
| | 確定診断 | 7 |
| | その他 | 0 |

(令和4年度(9月末現在))

| 内訳 | | 件数 |
|------------|---------------|----|
| 継続支援を要する相談 | | 80 |
| 支援終了件数 | | 16 |
| 支援結果 | 地域生活移行や日中活動支援 | 3 |
| | 就労(復職、新規) | 4 |
| | 就労支援事業所利用 | 3 |
| | 復学や学校生活 | 1 |
| | 確定診断 | 3 |
| | その他(支援事項の消滅等) | 2 |
| 継続中の件数 | | 64 |
| 支援ニーズ | 地域生活移行や地域生活 | 16 |
| | 就労 | 41 |
| | 復学や学校生活 | 3 |
| | 確定診断 | 4 |
| | その他 | 0 |

ウ 作業体験プログラム（別紙6）

高次脳機能障害による仕事への影響や現在の作業能力を評価するとともに、工夫の提案等を行う小集団のプログラムを実施している（週1回、1回2時間、1人当たりの参加回数は8回程度）。模擬的な職場環境を設定し、様々な作業体験や他者とのやり取りの経験を通して、参加者自身が今後の働き方を検討する機会となっている。プログラムで得た個別の評価結果や代償手段の提案などを今後の就労検討に活用してもらうことを目的に、参加者に作業体験報告書を作成し、交付している。プログラム終了後は、復職や新たな就職、福祉就労等に向けて、担当の支援コーディネーターが、職場やハローワーク、障害者職業センター、就労支援事業所等の相談や見学に同行し、障害特性を踏まえた仕事選びや工夫、対応について助言するなどの個別支援を行っている。

令和3年度以降も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策（1回当たりの定員縮減、開催回数を週2回に拡大、検温、手指の消毒、換気、ソーシャルディスタンスに配慮した座席配置等）を徹底した上で実施している。

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|-------|-------|-------|------------------|
| 実施回数 | 54 | 46 | 23 |
| 参加実人数 | 16 | 27 | 10 |
| 参加延人数 | 102 | 171 | 59 |

エ 当事者・家族交流会（別紙7）

同じような経験者だからこそ「安心して話せる」「分かってもらえる」場を設け、孤独感や不安感の軽減と、今後の生活に役立つ情報交換や相互支援を図ることを目的に、月に1回開催している。

また、交流会参加者のニーズを踏まえ、生活を広げていくうえで利用できる制度や資源を知ることが目的とした行事の企画（事業所訪問等）を行っている。

令和4年度も、感染症拡大防止の対策（1グループ当たりの人数制限、検温、手指の消毒、換気、ソーシャルディスタンスに配慮した座席配置等）を徹底した上で毎月実施している。

<当事者・家族交流会実施状況>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|--------|-------|-------|------------------|
| 実施回数 | 6 | 8 | 6 |
| 延べ参加者数 | 66 | 76 | 66 |

オ 高次脳機能障害支援ネットワーク会議 （別紙 8）

平成 27 年度までは京都府が府下全域を対象に開催。平成 28 年度は京都市域での実施がなかったが、平成 29 年度からは京都府と本市の共催により開催している。

高次脳機能障害に対する理解を深めるとともに、医療、福祉、介護、就労、教育、相談支援等の高次脳機能障害者支援に関わる機関で、取組状況を情報共有するとともに、地域の置かれている課題について意見交換を行うなど、関係機関相互の切れ目のない支援ネットワークの構築を図っている。

<高次脳機能障害支援ネットワーク実施状況>

| 年度 | 実施日 | 内容 | 参加者数 |
|------------|-----------|---|------|
| 令和 2 年度 | — | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 | — |
| 令和 3 年度 | 10 月 29 日 | (Zoom によるオンライン開催) 講演「医療から地域へ～神奈川リハビリテーション病院の取組から～」 神奈川リハビリテーション病院 青木重陽氏 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 グループでの交流・意見交換 | 62 |
| 令和 4 年度 | 11 月 17 日 | (会場とオンライン「Zoom」のハイブリッド開催) 講演「脳障害を理解するっ!! (高次脳機能障害・発達障害・認知症)」 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 京都大学医学部附属病院精神科神経科助教 上床輝久氏 グループでの交流・意見交換 ※ 地域リハビリテーション推進研修との共催 | — |

(2) 各種研修

ア 入門講座 （別紙 9）

高次脳機能障害のある方やその御家族、支援者及び関心のある方を対象に、高次脳機能障害の基礎知識を学ぶ機会として、平成 27 年度から実施している。

平成 27 年度は 3 回シリーズ・2 クール、平成 28 年度には「就労」と「失語症」の 2 テーマを加え、5 回シリーズ・2 クールで実施した。

平成 29 年度からは、更にテーマを充実させ「当事者・家族からの声、関連事業所等紹介」の 1 テーマを加え、6 回シリーズ・2 クールで実施している。

参加者の内訳としては、概ね当事者や家族が 3 割、支援者やその他市民等が 7 割の比率となっている。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2 回しか開催することができなかったことから、代替手段として、講座の内容を「入門講座ダウンロード版資料」として編さんし、当センターのホームページに公開した。

令和 3 年度以降は、会場での集合研修と YouTube を活用したオンライン研修とを合わせて開催している。

<入門講座実施状況>

| 開催回 | 内 容 | 参加者数 | | | | | |
|-----|------------------|-------|----|-------|-----|-------|----|
| | | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 令和4年度 | |
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 第1回 | 発症からのステップ | 中止 | 36 | 141 | 73 | 155 | |
| 第2回 | 注意障害・記憶障害・遂行機能障害 | 中止 | 中止 | 160 | 99 | 176 | |
| 第3回 | 社会的行動障害 | 中止 | 中止 | 176 | 98 | 176 | |
| 第4回 | 失語症 | 中止 | 中止 | 168 | 107 | 204 | |
| 第5回 | 就労 | 中止 | 中止 | 162 | 102 | 184 | |
| 第6回 | 当事者・家族の声、関連事業所紹介 | 中止 | 17 | — | 160 | — | |

※令和3年度以降の参加者数は、会場受講者数とオンライン受講申し込み者数を合算した数を計上

イ 医療機関研修（別紙10）

医療機関との連携強化や障害理解促進を目的として、平成28年度から医療機関（急性期病院や回復期病院等）が主催する院内研修に講師派遣を行ってきた。令和元年度及び令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。令和3年度からはオンライン会議システム（Zoom）を使用し、当センター主催の研修会として開催している。

<医療機関研修実施状況>

| 年度 | 実施日 | 内 容 | 参加人数 |
|-------|--------|---|------|
| 令和2年度 | — | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 | — |
| 令和3年度 | 11月17日 | 講演「脳損傷後の各ステージで医療に求められる役割」 (Zoomによるオンライン開催) 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 | 60 |
| 令和4年度 | 10月27日 | 講演「高次脳機能障害の症例から学ぶ 入院中の関わりと退院時支援のススメ」(Zoomによるオンライン開催) 京都光華女子大学健康科学部教授 上田敬太氏 | — |

ウ よくわかる高次脳機能障害セミナー（介護保険施設・事業所職員対象研修）（別紙11）

介護保険施設や事業所職員への高次脳機能障害の周知を目的に、平成30年度から、介護ケア推進課の協力を得て、「京都市認定調査員現任研修会」の同日午前、同じ会場で実施してきた。

令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンライン会議システム（Zoom）を使って開催している。

<よくわかる高次脳機能障害セミナー実施状況>

| 年度 | 実施日 | 内容 | 参加者数 |
|-----------|-------------|-------------------------------|------|
| 令和 2年度 | 3月15日 | 「認知症ケアの知識と経験はこう使える！～共通点と相違点～」 | 110 |
| 令和 3年度 | 1月20日 | 同上 | 157 |
| 令和 4年度 | 1月19日 予定 | 同上 | — |

エ 事業所等での研修・講師派遣 (別紙3)〔再掲〕

平成29年度から、支援機関及び地域に専門職員を派遣し、リハビリテーションに関する知識や技術の向上、高次脳機能障害支援の拡大を目的とした「地域ガエルのお出かけ講座」を開催している。

また、令和元年度からは、小児の高次脳機能障害について、教育委員会総合育成支援課と連携し、教職員への研修に参画している。

<小児高次脳機能障害研修実施状況>

| 年度 | 開催機関 | 内容 | 派遣講師 | 参加者数 |
|-----------|---------------------------|--|--|------|
| 令和 2年度 | | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止 | | |
| 令和 3年度 | LD等通級指導専門性 向上研修会(10/6) | 「発達障害と高次脳機能障害の 違いと関連性について」 (Zoomによるオンライン開催) | 京都大学医学部附属病院 作業療法士 草野祐介氏 | 41 |
| 令和 4年度 | LD等通級指導専門性 向上研修会(2/13) | 「子どもの高次脳機能障害と学 校生活～リハビリテーションの 視点を活かす～」 (Zoomによるオンライン開催) | 千葉リハビリテーションセ ンター 中島友加氏、須田真紀氏、 川原佑亮氏 | — |

<地域ガエルのお出かけ講座(高次脳関係)他、関係機関への講師派遣研修実施状況>

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|------|-------|-------|------------------|
| 派遣回数 | 1 | 2 | 0 |
| 受講者数 | 20 | 29 | 0 |

(3) 普及啓発

ア 市民向け啓発

高次脳機能障害について、広く市民の方に知っていただくためのセミナーやイベント等を実施しているが、ここ近年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集合型のイベントは開催できていない。そのため、令和3年度より、入門講座を YouTube 上でオンデマンド配信することにより、高次脳機能障害の知識を広く市民に届けられるようにしている。

その他、普及啓発活動の一環として、今年6月開催の京都市民生児童委員連盟理事会において、当センターの事業案内をさせていただき、各学区の民生児童委員に周知していただくよう依頼した。また、今年度の高次脳機能障害支援ネットワーク会議は、同じ“脳の認知機能の障害”である発達障害や認知症をテーマとして取り上げ、さらに地域リハビリテーション推進研修と共催することによって、近接領域の障害を支援する方にも広く参加を募り、高次脳機能障害を知ってもらえる機会とした。

イ リーフレット

高次脳機能障害者支援センター及び障害者支援施設のリーフレットを、関係機関に送付するとともに、各種研修等でも配布している。

ウ インターネットを使った情報発信

高次脳機能障害者支援センター独自のホームページとフェイスブック、YouTube チャンネル等を活用して、高次脳機能障害に関する知識の普及や研修等の情報発信を行っている。令和3年度より、当センターの事業や研修等の紹介動画を YouTube チャンネル上に公開している。

2 高次脳機能障害に特化した障害者支援施設

(1) 施設概要

当センター内に設置されている障害者支援施設について、平成27年4月から、支援対象者を従来の肢体不自由のある方から高次脳機能障害のある方に転換し、平成27年10月からは短期入所支援も開始している。

〔定員〕

- ① 自立訓練 40名（生活訓練15名、機能訓練25名）
（うち入所支援30名）
- ② 短期入所 2名（空床利用）

(2) 運営実績

新施設運営開始から一定年数が経過し、回復期リハビリテーションを実施している市内の主な医療機関を中心に利用者を受け入れてきた結果、年々利用者が増加し、令和元年度には、月平均利用者数が33人となった。

しかし、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、月平均利用者数が26人と減少。令和3年度も、昨年度をはるかに超える感染者数の拡大の影響により、月平均利用者数が24人とさらに減少した。今年度に入っても、新型コロナの感染拡大によりその影響は少なからずあったが、第7波のピークを過ぎた頃より利用希望が増えてきている。また、令和元年度以降、帰る家がないケースや家族関係が希薄なケースなど生活環境に課題を持っている方や重度な失語症のある方などの利用が中心になってきており、地域移行に向けたケースワークの難しさを実感している（令和元年度の成年後見制度の利用は0人であり、それ以前も各年度1名おられるかどうかであったが、現在入所者9名のうち4名が制度利用しておられる状況となっている）。

コロナ対策としては、前年度に引き続きクラスターの発生を予防するため施設内の消毒作業など基本的な感染予防対策を徹底するだけでなく、訓練や生活場面において利用者間で「三密」にならないように利用環境に工夫を図り、感染予防に細心の注意を払い施設運営を行った。施設利用の見学や面接については、必要な訓練を求めている方々のニーズを満たせるように感染予防を心掛けながら受け付けるように努めてきた。

引き続き、当施設の取組についてPRするなど、医療機関との連携を深める取組を行い、新規利用者の確保を図るとともに、利用者の退所支援にも取り組んでいく。

ア 訓練別利用者の状況

| | 総数 | | |
|------|----|----|----|
| | | 入所 | 通所 |
| 総数 | 25 | 9 | 16 |
| 生活訓練 | 16 | 5 | 11 |
| 機能訓練 | 9 | 4 | 5 |

(令和4年9月末現在)

イ 利用開始・終了の状況

| 開始・終了 | サービス種別 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 (9月末現在) |
|--------|--------|------|-------|-------|------------------|
| 新規利用開始 | 自立訓練 | 機能訓練 | 11 | 6 | 4 |
| | | 生活訓練 | 6 | 10 | 4 |
| | 施設入所支援 | | 7 | 5 | 3 |
| 利用終了 | 自立訓練 | 機能訓練 | 14 | 8 | 5 |
| | | 生活訓練 | 9 | 10 | 3 |
| | 施設入所支援 | | 9 | 9 | 2 |

<令和4年度の月別の状況>

※「月末現在数」の「計」は「月平均値」

| | | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|----------|------|----|----|----|----|----|----|------|
| 新規 利用 | 自立訓練 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 8 |
| | 入所支援 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| 利用 終了 | 自立訓練 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 8 |
| | 入所支援 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 月末現在数 | | 25 | 24 | 24 | 25 | 24 | 25 | 24.5 |
| 入所支援 | | 8 | 8 | 8 | 9 | 9 | 9 | 8.5 |
| 短期入所延人数 | | 3 | 2 | 1 | 0 | 2 | 2 | 10 |
| 実利用者数 | | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 7 |

ウ 自立訓練終了者の状況（令和3年度、4年度分）

※令和4年度は9月末現在

| 年度 | 訓練 種別 | 復職 | 新規 就労 | 就労移 行支援 施設 | 就労 継続 施設等 | 生活 介護 事業所 | その他 施設 | 介護 保険 サービス | 学校 | その他 | 合計 |
|---------------|----------|----|----------|------------------|-----------------|-----------------|-----------|------------------|----|-----|----|
| 令和 3 年度 | 機能 訓練 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 10 |
| | 生活 訓練 | 2 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 10 |
| | 合計 | 5 | 1 | 0 | 5 | 0 | 1 | 2 | 1 | 5 | 20 |
| 令和 4 年度 | 機能 訓練 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 生活 訓練 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| | 合計 | 2 | 0 | 0 | 1 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 9 |

*複数該当する場合はそれぞれに計上



高次脳機能障害があっても、
仕事を続けたい、働きたい方へ！

作業体験プログラム

参加費は
無料です。

作業体験プログラムは、模擬的な職場場面で色々な作業や他者との関わりをとおして、高次脳機能障害の仕事への影響、現在の作業能力を把握し、今後の働き方（復職・一般就労〔障害者雇用を含む〕・福祉的就労、工夫の仕方など）を一緒に考えていくプログラムです。

日時：毎週木曜日 9：30～11：30
or
13：30～15：30

期間：約2ヶ月（8回程度まで）

場所：京都市地域リハビリテーション推進センター
1階 ミーティングルーム

対象：京都市民の方で、高次脳機能障害があり、
◎当センター専門相談で参加が必要と判断された方
◎集団プログラムに参加できる方 など



職員との振り返り



ピッキング作業



対人技能（配達・注文受け）



作業中の様子

スケジュール

9：30～ 朝礼
9：45～ 前半作業
10：20～ 休憩
10：30～ 後半作業
11：00～ 掃除
11：15～ 終礼
11：30 終了

（午後は13：30から同じコマ割りです）

新型コロナウイルス感染症 対策について

- ・三密を防ぐため、参加人数を午前、午後、各3名程度としています。
- ・参加者の方には、マスクの着用や手指の消毒、検温へのご協力をお願いしています。
- ・プログラム前後には、室内の机、椅子等は消毒しています。また、プログラム時間内は常時換気をしています。
- ・当日の体調にご配慮いただき、咳や発熱などの風邪症状がある場合は、参加をお控えいただきますようお願いいたします。

まずは、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先：京都市高次脳機能障害者支援センター
（京都市地域リハビリテーション推進センター相談課内）

TEL：075-823-1658

FAX：075-842-1541

電話受付時間

午前8：30～12：00及び13：00～16：00

月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）



京都市



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

京都市印刷物 第044361号
発行 京都市地域リハビリテーション推進センター（令和4年9月）

令和4年度

高次脳機能障害

当事者・家族交流会

一緒にお話し
しませんか？

京都市高次脳機能障害者支援センターでは、高次脳機能障害のある方やそのご家族のための「当事者・家族交流会」を毎月開催しています。なごやかな雰囲気での情報交換や交流をしていただけますので、「今後のことが不安で・・・」、「他の人はどういうふうに対応しているの?」、「話せる人がいなくて悩んでいる」という方！ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

また、支援者の方も、当事者やご家族の思いを知る機会として参加していただけますのでお問い合わせください。

- ・日 時： 毎月第2 金曜日（祝日を除く） 午前10時～午前11時30分
- ・場 所： 京都市地域リハビリテーション推進センター1階 研修室
（京都市中京区壬生仙念町30番地 ※四条御前の北西角の建物です。）
- ・対 象： 京都市にお住まいの高次脳機能障害のある方やそのご家族
- ・定 員： 当面は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を20名に限定（先着順）
- ・費 用： 無料
- ・申 込： 以下の申込・問合せ先にお電話ください。

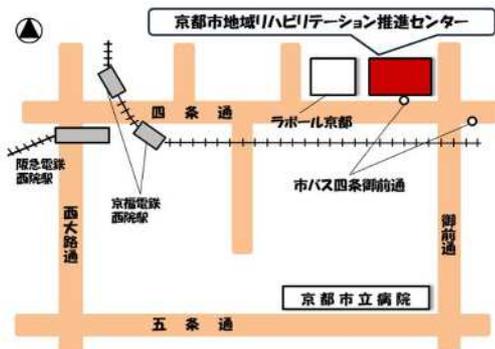
【開催にあたっての注意事項】

（新型コロナウイルス感染症対策について）

- ・感染症拡大防止のため、参加時にはマスクの着用をお願いします。また、受付時に手指の消毒と検温を実施しますので、ご協力をお願いします。
- ・会場内の机・椅子等はあらかじめ消毒を実施し、交流中は常時会場の換気を行います。
- ・当日の体調にご配慮いただき、咳や発熱などの風邪症状がある場合は、参加をお控えいただきますようお願いいたします。
- ・新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、内容を変更又は中止する場合があります。

（その他）

- ・開催当日の午前7時時点で、京都市に暴風警報、特別警報が発令されている場合は、開催を中止いたします。
- ・開催を中止する場合は、当センターホームページ等に掲載しますのでご確認ください、当センターまでお問い合わせください。



※公共交通機関をご利用ください。

高次脳機能障害とは、脳出血や交通事故などで、脳を損傷した後に生じる、記憶や注意等の後遺症のこと。脳の損傷箇所により、症状は人それぞれ。たとえば「新しいことが覚えにくい」、「ミスが増える」、「言葉のやりとりがしにくくなる」、「前とは性格が変わってしまったよう」などがあります。

～参加者の声～

- ・他の人から役立つ情報をもらった。
- ・困っていることや悩みを話せてよかった。
- ・同じような経験をしたからこそ、分かってもらえる。
- ・自分も当初困ったので、他の人のお役にたてたらいいな。

【申込・問合せ先】

京都市高次脳機能障害者支援センター

（地域リハビリテーション推進センター相談課内）

電話：075-823-1658

受付時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）

8:30～12:00 及び 13:00～16:00

当センターは高次脳機能障害の支援拠点として、いろいろな相談をお受けしています。ぜひ相談してくださいね！



※地域ガエル
(PRキャラクター)



京都市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

令和4年3月発行 京都市印刷物 第035015号
発行：京都市地域リハビリテーション推進センター

高次脳機能障害 × 発達障害 × 認知症

令和4年

11月17日(木)

14~17時

上田敬太 × 上床輝久

京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科言語聴覚専攻教授

京都大学医学部附属病院精神科神経科助教

脳障害を理解するっ!!

(高次脳機能障害・発達障害・認知症)

京都市地域リハビリテーション推進研修 × 京都府高次脳機能障害（京都市域）支援ネットワーク会議

高次脳機能障害支援ネットワークの構築のため、京都府・京都市の共催で、会議を開催します。

今回は、「脳障害（高次脳機能障害・発達障害・認知症）を理解するっ!!」がテーマです。京都市内で、高次脳機能障害等の診断・治療に従事している上田敬太先生と発達障害等の診断・研究をされている上床輝久先生の対談を通し、高次脳機能障害・発達障害・認知症の理解を深めていきます。また、参加者間のグループディスカッションなども予定しています。

高次脳機能障害・発達障害・認知症の診断、治療、リハビリ、療育、生活訓練、就労、地域生活などの支援に関わる皆様、ぜひご参加ください。

オンライン（Zoom）&会場で開催
参加費：無料

詳細は
Homepageを
ご覧ください。



Homepage




京都市

京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

発行 京都市地域リハビリテーション推進センター
京都市印刷物 第044383号
令和4年8月発行

【問合せ先】 京都市高次脳機能障害者支援センター
京都市中京区壬生仙念町30
電話：075-823-1658 FAX：075-842-1541

高次脳機能障害 入門講座



会場
or
オンライン

午前 10 時
~ 11 時
(会場)

京都市地域
リハビリテーション
推進センター
1 階 研修室
(会場)

京都市高次脳機能障害者支援センターが主催する高次脳機能障害入門講座。

1 回のみでの参加も OK。会場受講かオンライン受講 (YouTube による動画視聴) かを選べます。

令和4年度 後期スケジュール

| 会場開催日 | オンライン 受講期間 | テーマ・内容 |
|------------------------|---------------|--------------------------|
| 10 月 21 日 (金) | (会場のみ) | 特別編「当事者・家族からの声、関係事業所等紹介」 |
| 11 月 18 日 (金) | 左記から1週間 | 1「高次脳機能障害 概説」 |
| 12 月 16 日 (金) | 左記から1週間 | 2「注意障害・記憶障害・遂行機能障害について」 |
| 令和 5 年 1 月 20 日 (金) | 左記から1週間 | 3「社会的行動障害について」 |
| 令和 5 年 2 月 17 日 (金) | 左記から1週間 | 4「失語症について」 |
| 令和 5 年 3 月 17 日 (金) | 左記から1週間 | 5「就労に向けて」 |

申込み

① 入力フォーム

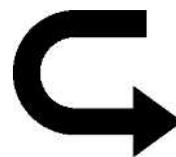


② FAX

075-
842-
1541

③ TEL

075-
823-
1658



詳細は裏面へ

高次脳機能障害とは

脳の病気（脳出血、脳梗塞など）や脳のケガ（交通事故などによる脳外傷）の後遺症として起こる障害。記憶力や注意力の低下、遂行機能（計画的に行動する力）の低下、行動と感情の変化、失語症（言葉をうまく操れなくなる）等の症状により、日常生活に支障がある状態を指します。外見からは分かりにくく、当事者に自覚がないことが多いため、「見えない障害」とも言われています。

会場

京都市地域リハビリテーション推進センター
1階研修室（中京区壬生仙念町30番地）

対象

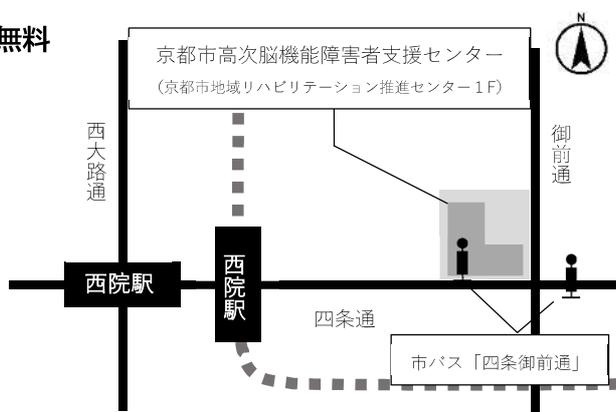
・市内に在住の高次脳機能障害のある方やその御家族、支援者
・高次脳機能障害に関心がある市内に在住、在職、在学の方

定員

会場：先着30名、オンライン：定員なし

費用

無料



【開催にあたっての注意事項】

（新型コロナウイルス感染症対策について）

- ・感染症拡大防止のため、参加時にはマスクの着用をお願いします。また、受付時に手指の消毒と検温を実施しますので、ご協力をお願いします。
- ・会場内の机・椅子等はあらかじめ消毒を実施し、常時会場の換気を行います。
- ・当日の体調にご配慮いただき、咳や発熱などの風邪症状がある場合には、参加をお控えいただきますようお願いいたします。
- ・新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、会場での開催を中止する場合があります。最新情報は当センターホームページに掲載しますので、ご確認ください。
- ・会場での開催が中止となった場合に、オンラインでの受講を希望される方は、申込の際にメールアドレスもご記入ください。中止時にオンライン受講用のURLを送ります。

（その他）

- ・開催当日の午前7時時点で、京都市に暴風警報、特別警報が発令されている場合は、会場での開催を中止します。

- ※ 申込みは、各講座開催日の2日前まで受け付けます。
- ※ こちらから申込受理の連絡を行います。申込後、数日経っても連絡がない場合は、お問い合わせください。



(ホームページ)



(Facebook)

令和4年度 高次脳機能障害 入門講座（後期） 申込書（FAX用）

| ふりがな | | 連絡先 TEL (必須) : |
|--------------------------------|--|----------------------|
| 氏名 | | 連絡先 FAX : |
| メールアドレス | (オンライン受講希望の方は、必須) _____@_____ | |
| ※支援者の方のみ記入 | 事業所名 | 職種 |
| ※京都市内に在住・在学・在勤ですか (はい ・ いいえ) | | |
| ※会場受講の方のみ記入 | 会場での開催が中止の場合、オンラインでの受講を (希望する ・ 希望しない) | |
| テーマ | 会場受講 (希望日に○を記入) | オンライン受講 (希望する回に○を記入) |
| 特別編「当事者・家族からの声、関係事業所等紹介」 | 10月21日(金) | (会場のみ) — |
| 1「高次脳機能障害 概説」 | 11月18日(金) | 左記から1週間 |
| 2「注意障害・記憶障害・遂行機能障害について」 | 12月16日(金) | 左記から1週間 |
| 3「社会的行動障害について」 | 令和5年1月20日(金) | 左記から1週間 |
| 4「失語症について」 | 令和5年2月17日(金) | 左記から1週間 |
| 5「就労に向けて」 | 令和5年3月17日(金) | 左記から1週間 |

高次脳機能障害の症例から学ぶ

入院中の関わりと 退院時支援のススメ

講師 上田 敬太氏

京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻 教授
京都市高次脳機能障害者支援センター 嘱託医

※京都大学医学部附属病院他で高次脳機能障害者の治療に従事。神経心理学会、高次脳機能障害学会等で研究活動を展開。令和3年4月より現職。



令和4年 10月27日 (木) 17:30~19:00

講師から表記タイトルのご講演をいただきます。受講いただくと、裏面の困り事などの解決に役に立ちます。
また、京都市高次脳機能障害者支援センターの事例などを紹介する予定です。

【開催方法】 「Zoom」を用いたオンライン研修

【対象者】 京都市内の急性期・回復期病院等の医療関係者

医師、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、看護師、医療ソーシャルワーカーの専門職等

【定員】 100名 ※先着順。職場等で複数名での視聴が可能な場合、代表者1名でお申し込みください。ご協力をお願いします。

【申込方法】 裏面参照

【申込締切】 令和4年10月13日(木)

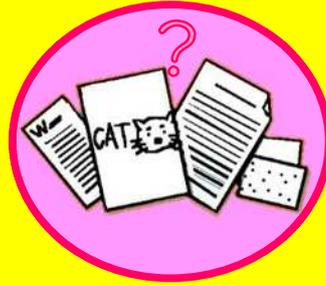
【費用】 無料

【主催】 京都市高次脳機能障害者支援センター

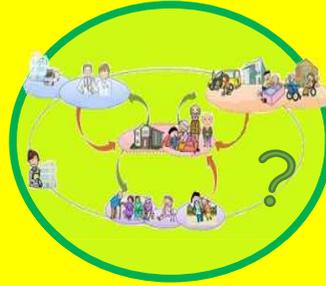
こんな困り事ありませんか？



治療やリハビリが進まない



心理検査が分からない



連携先が分からない



障害者手帳？
障害年金？

障害者雇用？
福祉的就労？

利用できる制度が
分からない

医療機関研修 注意事項・申込方法等

研修受講について

- ・本研修はZoomを利用します。
- ※カメラ・マイクは不要です。
- ・インターネット接続が可能なパソコン、スマートフォン、タブレット等が必要です。
- ※通信料は、受講者負担です。
- ※インターネットへの接続環境や技術的な障害によって、研修中に接続が切れる可能性があります。
- ※セキュリティリスクを防ぐため、フリーWi-Fiでの接続は避けてください。

注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。
該当する行為が発見された場合は、ご退室いただきます。
また、研修内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処させていただきます。

- ・研修の録画、録音、撮影
- ・資料の二次利用
- ・Zoomの参加ID及びパスワードの無断共有
- ・研修の詳細内容のSNS等への投稿

受講までの流れ

- (1) 申込み
 - 以下の申込フォームから、必要事項を入力してください。
- (2) 受付通知
 - お申し込みいただいたメールアドレスに、研修参加の際に必要な「受講番号」を記載した受付完了メールをお送りします。
 - 受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが以下の問合せ先にご連絡ください。
- (3) 資料や参加ID
 - お申し込みいただいたメールアドレスに、研修資料、参加ID・パスコード等を送付します。(申込締切後送付予定)
- (4) 研修当日
 - 研修開始30分前からログインが可能です。
 - (3)の参加ID・パスワードで入室してください。
 - 表示名は「受講番号、申込者名」にしてください。
所属名は、不要です。例：「02 山本」、「19 清水」
- (5) 研修受講後
 - アンケートへのご協力をお願いします。

※主催者は、記録及び研修運営の安全管理を目的として、研修を録画させていただきます。

※お申し込みいただいた際は、上記注意事項に同意いただいたものとみなします。

申込フォーム

以下のURL又は右の二次元コードからアクセスし、お申し込みください。

URL https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=5894

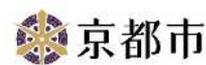
※お申込みにあたって、お預かりする個人情報は、本研修以外の目的で使用しません。

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、安全な運営が難しくなった場合等は、研修を中止することがあります。



【問合せ先】京都市高次脳機能障害者支援センター
(京都市地域リハビリテーション推進センター相談課)

TEL (075) 823-1658 FAX (075) 842-1541



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

発行 京都市地域リハビリテーションセンター

京都市印刷物 第044362号

令和4年8月発行

よくわかる 認知症と高次脳機能障害

セミナー

共通点と相違点

**認知症ケアの知識と
経験はこう使える！**

認知症と高次脳機能障害は、脳の認知機能の障害という点で類似しています。
それぞれの症状の背景にある脳機能の特徴を知ること、認知症ケアの知識と経験を、高次脳機能障害にも活用しやすくなります。
事例も豊富にご紹介します。奮ってご参加ください！

京都光華女子大学教授

2023.

上田 敬太 医師

1.19 [木]

開始 14 : 30 / 終了 17 : 00

開催方法：Web会議システム「Zoom」

対 象：京都市内の介護保険施設、事業所職員を優先
(他領域の支援者の方も申込み可)

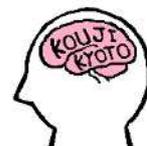
申込み：裏面の申込フォームから

費 用：無料

定 員：100名

主 催：京都市高次脳機能障害者支援センター

(京都市地域リハビリテーション推進センター相談課)



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

こんな困り事ありませんか？



感情コントロールが
うまくいかない



スマホの
使い方
ゴミ回収の
変更点

新しいことが
覚えられない



自発性の低下



道に迷う

注意事項・申込方法等

研修受講について

- ・本研修はZ o o mを利用します。
- ※カメラ・マイクは不要です。
- ・インターネット接続が可能なパソコン、スマートフォン、タブレット等が必要です。
- ※通信料は、受講者負担です。
- ※インターネットへの接続環境や技術的な障害によって、研修中に接続が切れる可能性があります。
- ※セキュリティリスクを防ぐため、フリーWi-Fiでの接続は避けてください。

注意事項

以下に該当する事項は、固くお断りいたします。
該当する行為が発見された場合は、Z o o mからご退室いただきます。
また、研修内容の盗用が発覚次第、講師の著作権・肖像権侵害として厳重に対処させていただきます。

- ・研修の録画、録音、撮影
- ・資料の二次利用
- ・Z o o mの参加ID及びパスワードの無断共有
- ・研修の詳細内容のSNS等への投稿

受講までの流れ

(1) 申込み

- 以下の申込フォームから、必要事項を入力してください。

(2) 受付通知

- お申し込みいただいたメールアドレスに、研修参加の際に必要な「受講番号」を記載した受付完了メールをお送りします。
- 受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが以下の問合せ先にご連絡ください。

(3) 資料や参加ID

- お申し込みいただいたメールアドレスに、研修資料、参加ID・パスワード等を送付します。(申込締切後送付予定)

(4) 研修当日

- 研修開始30分前からログインが可能です。
- (3)の参加ID・パスワードでZ o o mに入室してください。
- 表示名は「受講番号、申込者名」にしてください。
所属名は、不要です。例：「02 山本」、「19 清水」

(5) 研修受講後

- アンケートへのご協力をお願いします。

※主催者は、記録及び研修運営の安全管理を目的として、研修を録画させていただきます。

※お申し込みいただいた際は、上記注意事項に同意いただいたものとみなします。

申込フォーム

以下のURL又は右の二次元コードからアクセスし、お申し込みください。

URL https://sc.city.kyoto.lg.jp/multiform/multiform.php?form_id=5957

(申込締切：2023. 1. 5 [木] または定員になり次第)

※お申込みにあたって、お預かりする個人情報は、本研修以外の目的で使用しません。

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、安全な運営が難しくなった場合等は、研修を中止することがあります。



【問合せ先】京都市高次脳機能障害者支援センター

(京都市地域リハビリテーション推進センター相談課)

TEL (075) 823-1658 FAX (075) 842-1541